令和８年度
こころ医療福祉専門学校壱岐校
シラバス

介護福祉科

					1年次		2年次	
分野	授業科目	区分	単位	時間	前期	後期	前期	後期
人間と社会	人間の理解	講義	4	60	30	30		
	社会と制度の理解 Ⅰ	講義	2	30			30	
	社会と制度の理解 Ⅱ	講義	2	30				30
	地域福祉論	講義	2	30			30	
	人間関係とコミュニケーション	講義	4	60			30	30
	国語表現	講義	4	60	30	30		
介護の分野	介護の基本Ⅰ	講義	4	60	30	30		
	介護の基本Ⅱ	講義	4	60			30	30
	介護の基本Ⅲ	講義	4	60			30	30
	コミュニケーション技術	講義	4	60	30	30		
	生活支援 A(生活支援)	講義	2	30		30		
	生活支援 B(栄養/調理)	演習	4	60			60	
	生活支援 C(被服 10・住居5)	演習	4	60	60			
	生活支援 D(実技基礎)	実技	2	60	60			
	生活支援 E(実技応用)	実技	2	60		60		
	生活支援 F(重複障害者の介護)	講義	2	30		30		
	介護過程 Ⅰ	講義	4	60	30	30		
	介護過程 Ⅱ(ケアマネジメント)	講義	2	30			30	
	介護過程 Ⅲ(演習)	講義	4	60				60
	介護総合演習 Ⅰ	講義	4	60	30	30		
	介護総合演習 Ⅱ	講義	4	60			30	30
	介護実習	実習	15	456	80	176		200
こころと体のしくみ	障害の理解	講義	4	60			30	30
	こころと体のしくみⅠ	講義	4	60	30	30		
	こころと体のしくみⅡ	講義	4	60			30	30
	認知症の理解	講義	4	60	30	30		
	発達と老化の理解	講義	4	60	30	30		
	医療的ケアⅠ	講義	4	68	34	34		
	医療的ケアⅡ 演習	講義	4	60			60	
	合計		111	1964	504	600	390	470

シラバス（授業計画書）

科目名（　　人間の理解　　）

学科名　介護福祉科
学年　1　年

1　授業の内容
人間としての尊厳の保持と、自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。
人間の理解を学ぶことで、利用者のより深い理解力や表現力（気づき）が身に付くよう学ぶことができる。

2　到達目標
老い、病、障害などによって生活支障を生じている人々への生活支援を行う際、「尊厳と自立」の支援ということになります。生活支援の重要な方法として、介護における生活支援技術がありますが、そのなかで人間の尊厳と自立がどのように生かされているかを学び習得する。

3　授業の方法
テキスト・プリント・ＰＣプロジェクターを利用したパワーポイント等による授業。
講義内容に関するグループワークを実施する。

4　成績評価方法・基準
定期試験　　80％
授業態度　　20％

5　評価の際の特記事項
定期試験、授業態度、研究発表における積極的な取り組みについて評価する。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
毎回、授業において配布する資料の見直しをすること。
教科書の予習、復習をしてくること。

7　使用教材・教具
最新・介護福祉士養成講座　人間の理解　　中央出版　第２版

8　学生へのメッセージ
尊厳保持と自立支援について理解を深め、介護観・倫理観を確立させましょう。
対象となる高齢者、障害のある人々とのコミュンケーション能力を高めましょう。

9　教員氏名（　　梅山　由香　　）
所　　属（こころ医療福祉専門学校　介護福祉科）
実務経験（介護施設において介護職員として勤務経験あり）

10　特記事項
実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（　　人間の理解　　）

回数	授業内容
1	オリエンテーション　　人間の理解について
2	人間の尊厳と利用者主体
3	人権思想の潮流とその具現化
4	人権や尊厳に関する日本の諸規定
5	確認小テスト・解答解説
6	社会福祉領域での人権・福祉理念の返還①（人は人をどう援助しようとしてきたか）
7	社会福祉領域での人権・福祉理念の返還②（戦後の新たな福祉のあり方への模索）
8	社会福祉領域での人権・福祉理念の返還③（戦後の新たな福祉のあり方への模索）
9	人権尊重と権利擁護①
10	人権尊重と権利擁護②
11	演習１、２
12	尊厳と自立についてのまとめ
13	確認小テスト・解答解説
14	前期まとめ
15	前期　確認試験
16	答案返却　　試験解説
17	自立の概念の多様性
18	自立とは①
19	自立とは②
20	自立について（まとめ）
21	介護を必要とする人の自立と自立支援①
22	介護を必要とする人の自立と自立支援②
23	自立についてのまとめ・確認小テスト・解答解説
24	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性①
25	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性②
26	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性③
27	演習１
28	演習２
29	尊厳の保持と自立について
30	後期まとめ
31	定期試験
32	答案返却　　試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　社会と制度の理解Ⅰ　）

学科名　　介護福祉科

学年　2年

1　授業の内容

本授業では、個人が自立した生活を営むことを理解するため、個人、家族、近隣、社会の単位で人間をとらえる視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解する。また、わが国の社会保障制度の基本的な考え方、歴史の変遷、しくみについて理解するとともに、介護保険制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する。

2　到達目標

個人の暮らしと生活の在り方を社会福祉との関連でとらえ、その意義と理念を理解することができる。

社会保障とは何か、社会保障の意義、社会保障が私たちの生活とどのように関連しているかなどについて、介護実践に活用できる知識として身に着ける。

介護保険制度創設の背景と目的、その後の改正および介護保険制度のしくみについての知識を身に付ける。

3　授業の方法

時事ニュースの介護保険制度や障害者福祉についての記事を題材にグループワークを行い、学校以外への関心を持たせる。

4　成績評価方法・基準

定期試験	80%
授業態度	20%

5　評価の際の特記事項

定期試験、小テストおよび授業態度（態度、発言の積極性）をもとに評価を行います。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の予習・復習をしてくること。

授業で配布している資料に関する予習・復習をしてくること。

7　使用教材・教具

最新・介護福祉士養成講座「社会の理解」中央法規　第3版

8　学生へのメッセージ

主体的に授業に参加し、積極的に学ぶことを期待します。

各法令、介護保険法、老人福祉法、障害者総合支援法などを理解しましょう。

9　教員氏名（　長島　武　　）

所　　属（こころ医療福祉専門学校壱岐校　非常勤講師）

実務経験（老人保健施設において社会福祉士・介護職員として勤務経験あり）

10　特記事項

実務経験のある非常勤講師による授業。

科目名（　社会と制度の理解Ⅰ　）

回数	授業内容
1	社会と生活のしくみ　生活を幅広くとらえる
2	社会と生活のしくみ　生活の基本機能
3	社会と生活のしくみ　ライフスタイルの変化
4	社会と生活のしくみ　家族の機能と役割
5	社会と生活のしくみ　社会・組織の機能と役割
6	社会と生活のしくみ　地域・地域社会
7	社会と生活のしくみ　地域社会における生活支援
8	地域福祉の発展　理念と歴史
9	地域共生社会　社会的背景と理念
10	地域包括ケア　地域包括ケアシステム
11	社会保障の基本的な考え方
12	日本の社会保障制度の発達　社会保障制度の歴史
13	日本の社会保障制度のしくみ　保険の種類
14	現代社会と社会保険制度　　社会保障の意義と機能
15	定期試験
16	答案返却　　試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　社会と制度の理解Ⅱ　）

学科名　介護福祉科

学年　2年

1　授業の内容

本授業では、障害者の自立支援を担う法制度の在り方および介護実践に関わる諸制度、個人情報保護法、情報公開制度、第三者評価と成年後見制度、高齢者虐待防止法、日常生活自立支援事業、消費者保護関連制度等に対する理解を深めるとともに、わが国の医療保険制度や生活習慣病予防等の健康づくり施策、介護と密接に関連する医療関係者との連携に必要な法規など、介護実践に必要な基礎的知識を習得する。

2　到達目標

①障害者の自立支援を担う法制度創設の背景と目的、その後の改正および介護保険エイドのしくみについての知識を身につける。

②介護を必要とする人々に関連する諸制度の創設の背景、目的およびしくみについての知識を身につける。

③人の権利を守る制度、なかでも日常生活に密接に関わる施策が、自立支援を支援するために必要な社会的な制度であることを理解できる。

3　授業の方法

障害者施設の見学に行き実際の障害者の方とコミュニケーションを図る。

障害者総合支援法について理解を深める。

4　成績評価方法・基準

定期試験	80%
授業態度	20%

5　評価の際の特記事項

定期試験、小テストおよび授業態度（態度、発言の積極性）をもとに評価を行う。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の予習・復習をしてくること。

授業で配布している資料に関する予習・復習をしていること。

7　使用教材・教具

最新・介護福祉士養成講座「社会の理解」中央法規　第3版

8　学生へのメッセージ

主体的に授業に参加し、積極的に学ぶことを期待します。

9　教員氏名（　長島　武　　）

所　　属（こころ医療福祉専門学校壱岐校　非常勤講師）

実務経験（老人保健施設において社会福祉士・介護職員として勤務経験あり）

10　特記事項

実務経験のある非常勤講師による授業。

科目名（　社会と制度の理解Ⅱ　　）

回数	授業内容
1	高齢者保健福祉の動向　　歴史について
2	高齢者保健福祉に関連する法体系　　老人福祉法
3	介護保険制度　　創設の背景と目的
4	介護保険制度　　基本的理解
5	介護保険制度　　介護支援専門員の役割
6	介護保険制度　　動向
7	障害者保健福祉の動向　　現状と歴史
8	障害者保健福祉に関連する法体系
9	障害者総合支援制度　　創設の背景及び目的
10	障害者総合支援制度　　障害支援区分の認定
11	個人の権利を守る制度・施策　　虐待防止　消費者保護
12	保健医療に関する制度・施策　　生活習慣病
13	貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策
14	地域生活を支援する制度・施策
15	定期試験
16	答案返却　　試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　地域福祉論　）

学科名　　介護福祉科

学年　2年

1　授業の内容

本授業では、学生自身が地域住民の一員として安全に安心して生活することのできるしくみづくりや介護が必要であることを実感し、さらに社会福祉専門職として地域社会で発生している生活問題を具体的に解決していく道筋について学ぶことを目的とする。

2　到達目標

①地域社会で発生している生活問題について具体的に理解することができる。
②地域福祉の主体と対象について理解することができる。
③地域福祉の実践を進める際の基本理念や実践方法について理解することができる。
④地域の社会資源や地域の特性について知り、地域福祉推進のための課題と今後の方向性について理解することが出来る。

3　授業の方法

社会福祉協議会を見学に行き、地域での社会福祉協議会の役割や業務等を学ぶ。
地域における障害者施策や高齢者施策を見学することで、今後の取り組み等についてグループワークを行い学生の考えを共有する。

4　成績評価方法・基準

定期試験	80%
授業態度	20%

5　評価の際の特記事項

定期試験、小テストおよび授業態度（態度、発言の積極）をもとに評価を行います。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の予習・復習をしてくること。
授業で配布している資料に関する予習・復習をしてくること。

7　使用教材・教具

新版　よくわかる地域福祉　　ミネルヴァ書房

8　学生へのメッセージ

主体的に授業に参加し、積極的に学ぶことを期待します。

9　教員氏名（　　長島　武　　）

所　　属（こころ医療福祉専門学校壱岐校　非常勤講師）

実務経験（老人保健施設において社会福祉士・介護職員として勤務経験あり）

10　特記事項

非常勤講師による授業。

科目名（　　地域福祉論　　）

回数	授業内容
1	地域社会の現状と地域福祉　　・住民と地域福祉の関係
2	地域福祉とは何か　　・地域福祉の法的な位置づけ
3	地域生活支援とは何か　　・コミュニティソーシャルワークのプロセス
4	ミクロの地域福祉援助　　・個別ニーズの把握　・個別支援のネットワーク化
5	メゾの知育福祉援助　　・個別課題の普遍化　・プログラムの開発推進
6	マクロの地域福祉援助　　・地域資源のネットワーク化　・計画、制度化
7	基盤としての地域福祉力の向上　　・ニーズを早期に発見するしくみ
8	地域福祉の主体と実践　　・当事者組織について　・当事者組織の機能
9	ボランテァとは　　地域福祉の推進主体としてのボランテァ
10	自治会・町内会/地区社会福祉協議会　　・地区社会協議会見学学習
11	民生委員とは　　民生委員の実際の活動
12	地域包括支援センター　　・地域包括支援センターは何をするところか
13	社会的事業とは、　NPO とは　　事例：一人の困りごとから生まれる地域福祉プログラム
14	社会的企業とは　・地域福祉の推進主体としての社会的企業
15	定期試験
16	答案返却　　試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　　人間関係とコミュニケーション　　）

学科名　　介護福祉科
学年　2年

1　授業の概要
介護実践に必要な介護職と利用者との関係づくりのために必須であるコミュニケーションについて知識と理解を深め、コミュニケーション能力の基礎を固める学習を行う。
対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。

2　到達目標
介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養うことができる。
介護の質を高める為に必要な、チームマネジメントの基礎的知識を理解し、チームで働くための能力を養うことができる。

3　授業の方法
グループワークを中心に授業を進めながら、カウンセリング技法を学んでいく。
介護実習において利用者とのコミュニケーション能力を発揮できるようにする。

4　成績評価方法・基準
定期試験　　80%
授業態度　　20%

5　評価の際の特記事項
定期試験、授業中に積極的な意見を述べることができる。
グループワークでの授業態度や積極性、協調性も評価する。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
授業計画に沿って予習・復習をしてくること。配布したプリントの整理を行うこと。

7　使用教材・教具
人間の理解　中央法規　第2版（人間関係とコミュニケーション）

8　学生へのメッセージ
グループワークの演習への積極的な参加を期待します。
高齢者や障害のある人とのコミュニケーション技術を高めていきます。

9　教員氏名（　　梅山　由香　　）
所　　属（こころ医療専門学校壱岐校　介護福祉科）
実務経験（介護施設において介護職員として勤務経験あり）

10　特記事項
実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（　人間関係とコミュニケーション　）

回数	授業内容
1	オリエンテーション　　人間の誕生と介護の関係
2	自分と他者の理解
3	発達心理学からみた人間関係
4	社会心理学から見た人間関係
5	人間関係とストレス
6	コミュニケーションの概念・基本構造
7	コミュニケーションの手段（言語、非言語）
8	人間関係の発展と後退、配慮
9	対人援助における基本的態度（受容・共感・傾聴）
10	バイステックの７原則
11	確認テスト・解説
12	組織におけるコミュニケーション①（特徴・流れ）
13	組織におけるコミュニケーション②
14	前期まとめ
15	前期　確認試験
16	解答返却　解説
17	ヒューマンサービスとしての介護サービス
18	介護現場で求められるチームマネジメント
19	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み
20	ケアを展開するためのチームマネジメント①
21	ケアを展開するためのチームマネジメント②（リーダーシップフォロアーシップ）
22	介護福祉職のキャリアと求められる実践力
23	介護福祉職としてのキャリアパスとキャリアデザイン
24	介護福祉職のキャリア支援・開発①（OJT.OffJT.自己研鑽）
25	介護福祉職のキャリア支援・開発②（自己研鑽に必要な姿勢）
26	確認テスト・解説
27	介護サービスを支える組織の構造
28	介護サービスを支える組織の機能と役割
29	介護サービスを支える組織の管理
30	後期まとめ
31	後期　確認試験
32	回答返却　解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　国語表現　）

学科名　　介護福祉科

学年　1年

1　授業の内容

前期－日本語の用字・口語文法を理解し、表現技術を学ぶ。

後期－上記の事柄を習得し、テーマに従い文章表現を行う。敬語表現をマスターする。

2　到達目標

日常生活・学校生活・専門用語等に必要な語彙を習得し日本語能力を高める。条件作文を 400～600 字程度で時間内に完成することができる。

3　授業の方法

「読む」（名作・美文等の音読）・「書く」（漢字練習・条件作文の下書き・推敲・清書）・「話す」（１分間スピーチ・口答発表）・「聞く」の学習活動を教科書に従って行う。

4．成績評価方法・基準

定期試験　　80％

授業態度　　20％

5　評価の際の特記事項

毎時の出席率、授業態度、プリントの提出、ノート整理、条件作文の完成度、定期試験

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

配布プリントの見直しをすること。

授業計画に沿って予習復習をしてくること。

7　使用教材・教具

大学生のための文章表現練習帳　　図書刊行会　第２版

8　学生へのメッセージ

日常生活の中で「書く」という行為はまず少ない。現代社会ではスマホ１台があれば意思が通じる。しかし、本時では「書く」ということを中心に授業が進む。自分の意見を相手に伝わるように表現することが大事。自分の心や生活体験を見つめ、同時に相手のことも思い、身近なことから少しずつ書いていこう。また、美しい文字を書くことを意識してほしい。本校では多国籍の学生が学んでおり、異文化・言語・生活習慣等を知る中で、互いを尊重し、敬意を表し、コミュニケーションがなされれば有意義な国際交流の場ともなるでしょう。

国語表現が、卒業後の進路実現の一助となれば幸いです。

9　教員氏名（　　平川　典子　　）

所　　属（　こころ医療福祉専門学校壱岐校　非常勤講師　）

10　特記事項

非常勤講師による授業。

科目名（　　国語表現　　）

回数	授業内容
1	シラバス説明、自己紹介
2	日本語概論（文字・口語文法・用語　他）
3	「だ・である」体から「です・ます」体へ
4	「です・ます」体から「だ・である」体へ
5	「だ・である」体で文章を書く
6	「くだけた表現」を「ととのった表現」に
7	「ととのった表現」演習（文章を書く）
8	「くだけた表現」と「ととのった表現」例文
9	「箇条書」と「箇条書の文章」
10	主観的・客観的表現の区別／実習記録に活かす文章の書
11	原稿用紙の使い方　縦書き・横書き
12	原稿用紙の使い方　実習の感想文を書く
13	まわりくどい文章を簡潔な表現に
14	前期のまとめ、模擬テスト、解答解説
15	前期確認試験
16	試験返却・解説
17	文章表現　紹介文　下書き
18	文章表現　紹介文　清書
19	文章表現　意見文　下書き
20	文章表現　意見文　清書
21	文章表現 before/after の文章　下書き
22	文章表現 before/after の文章　清書
23	文章表現　レポート　before/after の文章（応用編）
24	敬語のドリル　敬語の識別
25	敬語のドリル　敬語の種類
26	敬語のドリル　敬語のマナー
27	敬語のドリル　年賀状の書き方
28	敬語のドリル　バイト敬語
29	敬語のドリル　手紙文・あいさつ状・メールの書き方
30	後期のまとめ　模擬テスト　解答と解説
31	定期試験
32	答案返却　　試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　　介護の基本Ⅰ　　）

学科名　　介護福祉科
学年　　1　年

1　授業の内容
「介護」というものを歴史的な経緯から意義や役割を理解し、自立に向けた介護とは何か学ぶ。その人らしい生活を支援する専門職として、介護を必要とする人の生活を理解し、求められる倫理観や姿勢を学ぶ。

2　到達目標
介護を必要とする高齢者や障害のある方の尊厳の保持、自立支援という新しい介護の考え方を理解するため、個人、家族、社会の関わりや自助から公助に至る過程について理解することができ、信頼のおける専門性を身に付ける。

3　授業の方法
担当教員の業務経験を活かしながら、利用者を取り巻く老人福祉法や介護保険法、実際の利用者のＱＯＬについて、尊厳、自立支援のあり方について授業を展開する。
ＰＣプロジェクターによるパワーポイントを利用した授業を行う。

4　成績評価方法・基準
定期試験　　80％
授業態度　　20％

5　評価の際の特記事項
授業態度、レポート・提出物の状況を評価する。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
毎回事業毎の配布資料を再確認すること。
教科書の予習・復習をしてくること。

7　使用教材・教具
最新・介護福祉士養成講座３　介護の基本Ⅰ　中央法規出版　第３版

8　学生へのメッセージ
演習を取り入れながら授業をすすめていきます。
自ら考え自ら行動することができるよう積極的に考える力をつけていきましょう。

9　教員氏名（　　梅山　由香　　）
所　　属（こころ医療福祉専門学校壱岐校　介護福祉科　）
実務経験（介護施設において介護職員として勤務経験あり）

10　特記事項
実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（　介護の基本Ⅰ　）

回数	授業内容
1	介護の成り立ち
2	専門職による「介護」が誕生した社会的な背景
3	介護の概念の変遷　介護サービスの量的拡充・質的向上
4	介護の概念の変遷　今日の介護実践の基本的概念・介護概念の拡充
5	介護福祉の基本理念　尊厳を支える介護
6	介護福祉の基本理念　自立を支える介護
7	介護福祉士の活動の場と役割　地域包括ケアシステム
8	介護福祉士の活動の場と役割　介護予防
9	介護福祉士の活動の場と役割　医療的ケア・人生の最終段階の支援
10	介護福祉士の活動の場と役割　災害時の支援
11	社会福祉士及び介護福祉士法
12	社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定
13	介護福祉士養成カリキュラムの変遷　介護福祉士養成教育の始まり
14	介護福祉士の介護福祉現場での期待　チームリーダー
15	確認試験
16	答案返却　　試験解説
17	介護福祉士を支える団体　日本介護福祉士会・日本介護福祉士養成施設協会
18	介護福祉士の倫理　介護実践における倫理
19	倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応
20	日本介護福祉士会倫理綱領
21	利用者の尊厳を保持した倫理的介護実践
22	自立に向けた介護福祉のあり方　利用者の意思決定
23	自立支援とエンパワメントの考え方
24	自立支援と ICF（国際生活機能分類）の考え方
25	介護のおける ICF のとらえ方　高齢者のストレングス
26	自立支援とリハビリテーション　リハビリテーションとは
27	リハビリテーションの実際　障害の理解と評価
28	リハビリテーションにおける自立のとらえ方　介護福祉士の役割
29	自立支援と介護予防　介護予防の概要　　介護予防の種類と特徴
30	高齢者の身体特性と介護予防　介護予防の実際
31	定期試験
32	答案返却　　試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　介護の基本Ⅱ　）

学科名　介護福祉科

学年　2　年

1　授業の概要

介護福祉士の資格や役割について理解し、住み慣れた地域で可能な限り生活を継続したいと願っている利用者のニーズを充足するために、多職種との連携をどのように行っていくのか学ぶ。また、利用者の安全確保と介護職自身の健康管理についても理解を深める。

2　到達目標

介護福祉を取り巻く社会状況や制度を理解し、多職種との連携を理解する。
ICF の視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーションなどの意義や方法を理解できる。介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解ができる。

3　授業の方法

介護の基本Ⅰを基に、憲法のセーフティネット関連や社会福祉法などを理解させる。
グループワークを行い、学生の考えを引き出し自らの意見が述べられるようにする。

4　成績評価方法・基準

定期試験　80%
授業態度　20%

5　評価の際の特記事項

定期試験、授業態度、積極的に授業に参加しているかを評価する。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業経過に沿って、教科書の予習・復習をしてくること。
配布プリントの見直しをすること。

7　使用教材・教具

最新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ　　中央出版　第3版

8　学生へのメッセージ

介護福祉士としての職業観・労働観を養っていくことを学びましょう。
複雑化、多様化、高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況における、介護福祉の基本となる理念を理解できるよう学びましょう。

9　教員氏名（　梅山　由香　）

所　属（　こころ医療福祉専門学校壱岐校　介護福祉科　）

実務経験（介護施設において介護職員として勤務経験あり）

10　特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（　介護の基本Ⅱ　）

回数	授業内容
1	生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）とは
2	生活を支えるインフォーマルサービス（私的サービス）とは
3	フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係　サービスの種類
4	インフォーマルサービス提供者　介護福祉士に求められる支援の視点
5	地域連携　地域連携の意義と目的
6	地域連携　利用者を取り巻く地域連携の実際
7	介護のおける安全の確保とリスクマネジメント　介護福祉士の資格と安全の確保
8	リスクマネジメント　利用者の尊厳の保持と安全な暮らしの提供を第一に考える
9	リスクマネジメントとは何か　尊厳のある暮らしの継続のための危機管理
10	福祉サービスに求められる安全・安心　事故防止のための対策
11	身体拘束の廃止について　身体拘束が引き起こす弊害について
12	感染症対策　感染対策は目に見えないものへの対応　感染症対策３原則
13	介護福祉職に必要な感染に関する知識　標準予防策（スタンダード・プリコーション）とは
14	安全な薬物療法を支える視点・連携　利用者本人も含めて他職種で連携する
15	確認試験
16	解答返却　解説
17	協働する多職種の機能と役割
18	他職種連携・協働の必要性　他職種連携・協働が必要とされる意味について
19	他職種協働を成功させるための介護技術と知識　ホスピタリティ的視点
20	保健・医療・福祉職の役割と機能、医師・看護師・理学、作業、言語療法士、社会福祉士等
21	他職種連携・協働の実際　専門職連携とは何か
22	自立支援介護における他職種連携の実際　他職種における地域での連携・協働
23	他職種連携・協働の実際　健康管理の意義と目的
24	こころの健康管理　介護従事者にとってのこころの健康管理
25	こころの病気　職場で取り組むこころの健康管理
26	身体の健康管理　介護従事者の身体の健康障害の現状
27	腰痛や頸肩腕障害の予防と対策　国際的な腰痛予防対策の考え方や取り組み
28	労働環境の整備　労働条件がかかわる労働環境
29	介護従事者の労働災害　事例で考える、けがと労働環境の関係
30	労働環境を整備して、けがを予防する　事故やけがの発生構造
31	定期試験
32	解答返却　解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　　介護の基本Ⅲ　　）

学科名　介護福祉科

学年　2　年

1　授業の内容

まずは福祉、医療における専門用語の解読を深める。
国家試験に向けて、介護の基本の分野の問題を解き、自ら解説を行うことで、知識を深めていく。また、介護の基本に関して、他の分野との関連性など多面的に評価することにより理解・知識をより深める。

2　到達目標

介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的知識や事故への対応を理解する。介護従事者自身が心身ともに健康で介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解する。

3　授業の方法

介護実習現場で学んだ施設サービスや在宅サービスについて、介護保険制度、障害者総合支援法、老人福祉法がどのように関連しているか各基準を学び理解する。

4　成績評価方法・基準

定期試験　　80%
授業内テスト　20%

5　評価の際の特記事項

定期試験、授業態度、小試験をもとに評価する。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿って教科書の予習・復習をしてくること。
授業で配布した資料を再度確認すること。

7　使用教材・教具

プリント配布

8　学生へのメッセージ

高齢社会において、介護福祉士の社会的期待と役割は大きく変化している、各法令についてしっかりと学びます。１問ずつ確実に課題を読み込むことで、しっかり理解を深めていきましょう。

9　教員氏名（　　村上　健太　　）

所　　属（こころ医療福祉専門学校壱岐校　介護福祉科）
実務経験（介護施設において介護職員として勤務経験あり）

10　特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（　介護の基本Ⅲ　）

回数	授業内容
1	介護を必要とする人の理解と介護の基本的視点
2	「その人らしさの理解」　主体的な存在
3	生活様式などの多様性　その人らしさを理解する
4	生活環境のとらえ方　多様な施設の理解
5	生活障害の視点と生活ニーズ、生活障害とは
6	高齢者、障碍のある人のQOL向上の考え方について「生活の質」とは
7	ノーマライゼーション、高齢者、障害のある方の「普通の生活」とは
8	利用者主体・個別ケア　利用者主体とは生活の主体者である
9	人の生涯の概念のとらえ方（ICF）　ICFについて学ぶ
10	相互作用モデル　環境因子、健康因子、個人因子について
11	ストレングスモデルとは　内的資源と外的資源について
12	リハビリテーションと介護　WHOにおける全人的復権の提唱
13	リハビリテーション分野と専門職　PT,OT,STの役割
14	４つのリハビリテーションの分野を理解する
15	確認試験
16	解答返却　解説
17	介護福祉士制度　「社会福祉士法及び介護福祉士法」
18	介護福祉士の定義と資格　介護福祉士の定義規定とは
19	求められる介護福祉士像を理解する
20	「社会福祉士及び介護福祉士」の義務規定について
21	多職種協働　様々な医療関係者、福祉関係者との連携とは
22	介護福祉士の倫理　生命倫理を理解し尊厳ある介護の実践を行う
23	職業団体　介護福祉士会倫理綱領を理解する
24	介護人材確保「社会福祉事業に従事する者の確保を図るための基本方針」
25	介護サービスにおけるケアマネジメント　ケアプランの作成と介護支援専門員
26	介護福祉士の定義、義務規定、介護福祉士会倫理綱領　小試験
27	介護保険制度で提供されているサービス　予防給付と介護給付
28	介護実践における連携　他職種アプローチ
29	連携する専門職（福祉職）の機能と役割
30	介護実践における連携　介護における安全の確保とリスクマネジメント
31	定期試験
32	解答返却　解説

シラバス（授業計画書）

科目名（コミュニケーション技術）

学科名　　介護福祉科

学年　1　年

1　授業の内容

介護福祉士に必要とされる、コミュニケーションの意義や目的を理解し、さまざまなニーズを持った利用者及び、家族との関係性また、介護におけるチーム内の関係の構築を図れるよう、さまざまな技法を学んでいく。
対象者との支援関係の構築を行い実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う。

2　到達目標

しっかりとした自己覚知ができ、「相手の立場に立って」コミュニケーションを積極的に
取ることができる。障害に応じたコミュニケーションの基本的な技術を習得する。
本人・家族のおかれている状況を理解し、支援関係の構築や意思決定を支援する内容とする。

3　授業の方法

グループワークを通して高齢者、障碍者の方とのコミュニケーション方法を学ぶ。
介護サービスを提供する際に必要なコミュニケーションやコミュニケーションを通して利用者の状態を予測をしたり利用者の健康維持にも必要な科目であることを理解させる。

4　成績評価方法・基準

定期試験	80%
授業態度	20%

5　評価の際の特記事項

定期試験、積極的に授業に参加しているか評価する。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿った教科書の予習・復習をしてくること
授業で配布している資料に確認する予習・復習をしてくること。

7　使用教材・教具

最新・介護福祉士養成講座５　コミュニケーション技術　中央法規出版　第２版

8　学生へのメッセージ

コミュニケーション技術は、介護福祉士としての最も重要な技術の一つになります。
現場で実践できる技術を身に着けることができるようしっかり学びましょう。

9　教員氏名（　　村上　健太　　）

所　　属（こころ医療福祉専門学校壱岐校　介護福祉科）
実務経験（介護施設において介護職員として勤務経験あり）

10　特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（　コミュニケーション技術　　）

回数	授業内容
1	介護におけるコミュニケーションの基本　　意義と目的
2	介護におけるコミュニケーションの対象　　介護福祉職の職務
3	援助関係とコミュニケーション　　援助関係の特徴　バイステックの７原則
4	コミュニケーションの基本技術　傾聴・受容
5	コミュニケーションの基本技術　共感・対人距離
6	コミュニケーション　演習　相手の話を聴く態度
7	言語コミュニケーションの基本　　言語の機能
8	非言語コミュニケーション・準言語コミュニケーション
9	目的別のコミュニケーション技術　　動機づけ　リフレーミング
10	集団におけるコミュニケーション技術　　意義　　集団運営の留意点
11	集団におけるコミュニケーション技術　演習　グループで思い出話をする体験
12	コミュニケーション障害への対応の基本　　コミュニケーション障害の原因
13	対象者の特性に応じたコミュニケーション　　視覚障害のある人への支援
14	対象者の特性に応じたコミュニケーション　　聴覚障害のある人への支援
15	確認試験
16	解答返却　　解説
17	対象者の特性に応じたコミュニケーション　　構音障害のある人への支援
18	対象者の特性に応じたコミュニケーション　　失語症の人への支援
19	対象者の特性に応じたコミュニケーション　　認知症の人への支援
20	対象者の特性に応じたコミュニケーション　　うつ病・抑うつ状態・統合失調症
21	対象者の特性に応じたコミュニケーション　　知的障害・発達障害
22	対象者の特性に応じたコミュニケーション　　高次脳機能障害・重症心身障害
23	家族とのコミュニケーション　　家族の理解
24	家族への助言・指導・調整　　利用者と家族の意向の調整　　介護ストレスへの対応
25	チームのコミュニケーションの意義・目的　　介護福祉職　　他職種協働
26	報告・連絡・相談の技術　　意義・環境づくり
27	記録の技術　　意義・目的　　種類と方法、書き方　　記録の実際
28	会議・議事進行・説明の技術　　会議の議事進行とチームにおける説明の技術
29	事例検討に関する技術　　事例検討の意義・目的　　基本姿勢と注意点
30	情報の活用と管理のための技術　　情報の管理・個人情報の保護と活用
31	定期試験
32	解答返却　　解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　　生活支援技術　A　　）

学科名　介護福祉科

学年　1　年

1　授業の内容

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、利用者の主体的な生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。
介護を必要とする方々の生活を理解し、介護福祉士がおこなう、その方の心身の状況に合わせた生活支援の提供のために、基本介護技術の応用力を高めていく。

2　到達目標

「人間の生活とは何か？」を考え、利用者の生活の視点をとらえる。個別性に応じた生活支援の提供を実践できる。ICF の視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための支援に繋がることを学ぶ

3　授業の方法

普通の生活ができなくなった高齢者や障碍者の「生活」を支援することとはなにか、障害があっても「普通の生活」をどのように支えるか、各法規を学びながら生活を支えることを学ぶ。

4　成績評価方法・基準

定期試験　　80%
授業態度　　20%

5　評価の際の特記事項

定期試験、積極性のある授業態度を評価します。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿って予習・復習をすること。
配布した資料の見直しをすること。

7　使用教材・教具

最新・介護福祉士養成講座 6　　生活支援技術 I　　中央法規　　第 3 版

8　学生へのメッセージ

継続する生活のなかで、利用者の尊厳の保持、自立・自律を支援しながら、一人ひとりの個別性を重視しどのような支援が適切かを考え理解を深めていきましょう。

9　教員氏名（　村上　健太　）

所　　属（こころ医療福祉専門学校壱岐校　介護福祉科）
実務経験（介護施設において介護職員として勤務経験あり）

10　特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（　　生活支援技術Ａ　　）

回数	授業内容
1	生活支援の基本的な考え方　　生活支援とは
2	ライフサイクルと生活の豊かさ
3	ICF の視点にもとづく生活支援
4	本人（利用者）を理解するための ICF の視点
5	生活支援におけるチームアプローチの重要性
6	ライフステージとチームアプローチのあり方
7	生活支援における福祉用具の重要性　　福祉用具とは
8	福祉用具を使用する意義　　これからの福祉用具の可能性
9	福祉用具の分類・公的制度における福祉用具サービス
10	適切な福祉用具を選ぶための視点　　リスクマネジメント
11	福祉用具を選ぶためのアセスメント　　適合とモニタリング
12	自立に向けた家事　買い物　　家庭経営、家計の管理
13	応急手当の知識と技術　　想定される事故と予防の視点
14	災害時における生活支援　　専門職としての心構えと状況判断
15	定期試験
16	解答返却　　解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　　生活支援技術　B　　）

学科名　　介護福祉科

学年　2　年

1　授業の内容

介護福祉士に必要な栄養・調理に関する知識・技術について学ぶ。
介護福祉士にとって、調理技術習得は重要な課題である。調理の目的である食の栄養性、嗜好性、および安全性の向上は調理者の知識技術に大きく左右されることを、実習を通して理解する。

2　到達目標

食材における栄養素の理解、食材の洗浄方法、計量、切り方、調理方法では食材の種類調理目的に応じて選択する力、および基礎調理技術を習得するとともに、調理の喜び、高齢者の「食べる喜び」を理解する。

3　授業の方法

嚥下困難のある人の健康を維持する食事づくりや「食べる楽しみ」、高齢者、障害のある人にとって食べやすさと食べる喜びを両立できる食事の提供について、座学で習得した知識を調理実習で活用し、定着を図る。

4　成績評価方法・基準

定期試験　　80%
授業態度　　20%

5　評価の際の特記事項

定期試験、積極性のある授業態度。
基本的な洗剤方法、食材の切り方、衛生的に段取りを考えて、効率よく調理ができる。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

配布したプリントを確認すること。
次回の調理のプリントを読み手順等を考えておくこと。

7　使用教材・教具

最新・介護福祉士養成講座 6　　生活支援技術 I　　中央出版　第 3 版
プリント配布

8　学生へのメッセージ

基本的な食品並びに食品の持つ様々な情報について理解すること。
調理実習において、食べ物と健康の関連性を理解するために、「高齢者の嗜好」について学び、食べ物の特性を踏まえた食事設計、調理の役割を理解しましょう。

9　教員氏名（　下條綾美　　）

所　　属（　こころ医療福祉専門学校壱岐校　非常勤講師　　）

実務経験（　特別養護老人ホーム壱岐のこころにおいて管理栄養士として勤務　）

10　特記事項

実務経験のある非常勤講師による授業。

科目名（　生活支援技術　B　）

回数	授業内容
1	食することの意義
2	オリエンテーション　施設での食事の様子
3	口から食べることの大切さ
4	グループ学習　食事に関する課題
5	調理実習　計画・献立の決定
6	調理実習　食べたいものを作る
7	食文化（地域・年代による文化の違い）
8	食生活の変化
9	高齢者の身体変化と食事
10	食中毒と予防
11	調理実習　調理の準備・衛生面への配慮
12	調理実習　基本的な切り方
13	調理実習　調理の工夫
14	調理実習　盛り付けの大切さ
15	高齢者への食事の配慮
16	食品の調理性・食材の下処理方法
17	介護障害のある人の栄養と食生活
18	献立の立て方・楽しい食事の演出
19	介護食の種類と介護用品
20	嚥下障害・視覚障害のある方の食事
21	栄養素の主な働き
22	生活習慣と生活習慣病、その予防
23	低栄養と補助食品
24	福祉用具の活用
25	調理実習　食べやすい調理方法
26	調理実習　ソフト食
27	調理実習　調理のポイントの整理
28	調理実技試験
29	全体のまとめ
30	定期試験
31	答案返却　　解説

シラバス（授業計画書）

科目名（生活支援技術Ｃ（住宅））

学科名　介護福祉科
学年　１年

1　授業の内容
福祉、医療人として不可欠な知識である生活支援で、住まいの環境整備は基礎となる部分であり、重要性を学ばせ、建物の空間構成を教え、居住環境の整備にかかわる職種とその役割について学ぶ。

2　到達目標
居住環境の整備の意義と目的、安全・安心で豊かな住生活を支える生活環境の構築、バリアフリー法・ハートビル法、住宅各所の空間構成を学んでいただき、住宅改修を行うために、専門的な立場から助言を行い医療人・介護福祉士に理解していただく。

3　授業の方法
バリアフリーの高齢者施設、障害者施設の見学をすることで、安全で住みやすい施設や居宅について理解を深める。グループワークをしながら事故が発生しやすい住まいとは何かを考える。

4　成績評価方法・基準
定期試験　80%
授業態度　20%

5　評価の際の特記事項
定期試験、授業態度を評価する

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
授業進度計画に沿って教科書の予習・復習をすること
授業で配布した資料の確認をすること

7　使用教材・教具
最新・介護福祉士養成講座６　生活支援技術Ⅰ　中央法規　第３版
プリント

8　学生へのメッセージ
生活支援技術Ｃの住宅については、自分の生活に直結した部分でもあり、高齢者などに配慮した住宅空間の問題であり、理解できる分野と思います。

9　教員氏名（　松本　六男　）
所　属（　こころ医療福祉専門学校壱岐校　非常勤講師　）
実務経験（　１級建築士として壱岐市睦設計事務所経営　）

10　特記事項
非常勤講師による授業。

科目名（　　生活支援技術C(住宅)　　）

回数	授業内容
1	居住環境の意義と目的（居住環境の意義）
2	居住環境の意義と目的（居住環境の意義）
3	居住環境の意義と目的（居住環境のアセスメント）
4	居住環境の意義と目的（居住環境のアセスメント）
5	安心で快適な生活の場づくり（住まいの場における工夫・留意点）
6	安心で快適な生活の場づくり（住まいの場における工夫・留意点）
7	安心で快適な生活の場づくり（集団生活の場における工夫・留意点）
8	安心で快適な生活の場づくり（集団生活の場における工夫・留意点）
9	他職種の役割と協働（連携の必要性）
10	定期試験
11	答案返却　　試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（生活支援技術Ｃ（被服））

学科名　介護福祉科
学年　１年

１　授業の内容
健康で快適な被服生活を営む上で必要な、被服の役割・機能・選択・管理について学ぶ。
高齢者・障害者に適した被服の利用を学ぶ。
自立に向けた身支度の介護技術について学ぶ。

２　到達目標
家事介助の意義及び目的を理解し、適切な家事介助のために必要な被服に関する基礎的知識・および技術を習得する。

３　授業の方法
実技では被服に関連する作品を通して運針の練習やボタン付、被服のほころびを修正する手法を学び、介護の現場で役立てる。
作品としてトートバッグや刺繍のハンカチ等を作成する。

４　成績評価方法・基準
定期試験　40％
実技試験　40％
授業態度　20％

５　評価の際の特記事項
授業態度、実技の態度および積極性も重視する。

６　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
授業計画に沿って予習・復習をすること
実技で学んだ技術を応用して実践すること

７　使用教材・教具
最新・介護福祉士養成講座６　生活支援技術Ⅰ　中央法規　第３版

８　学生へのメッセージ
予習として授業前にテキストを読んでおいてください。授業後は、テキストとノートを読み返して復習してください。さらに、学んだことを実践および体験することにより、理解が深まります。

９　教員氏名（　上川　文子　）
所　属（　こころ医療福祉専門学校壱岐校　非常勤講師　）
実務経験（　長年小学校教師として家庭科の指導経験あり　）

10　特記事項
非常勤講師による授業。

科目名（生活支援技術Ｃ（被服）　）

回数	授業内容
1	オリエンテーション・自己紹介・針山製作
2	①自己生活を支える家事　②洗濯
3	③掃除／ごみ捨ての介助　④裁縫（衣服の補修）
4	布マスク製作
5	布マスク製作（アイロン使用・なみ縫い・ミシンかけ・ゴム通し）
6	布マスク製作
7	衣類寝具の衛生管理　①衣類寝具の衛生管理の意義
8	②衣類の衛生管理
9	③寝具の衛生管理　④施設での衣類寝具の衛生管理
10	自立に向けた家事の介護・まとめ
11	エコバッグ製作
12	エコバッグ製作
13	エコバッグ製作
14	エコバッグ製作
15	エコバッグ製作・仕上げ
16	コースター製作
17	コースター製作
18	コースター製作・仕上げ
19	自立生活を支える家事に関するポイント整理・全体のまとめ
20	定期試験
21	答案返却　解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　　生活支援技術　D（実技基礎）　　）

学科名　介護福祉科

学年　1　年

1　授業の内容

介護福祉士として利用者のさまざまな生活支援を展開していくうえで必ず立ち返るべき技術である。介護福祉士が身につけておくべき生活支援技術を学ぶ前に、基本となる介護技術の専門用語の意味について理解し、介護福祉士が行う生活支援を十分に提供できるよう、その根拠となる理論を学ぶ。

2　到達目標

介護技術の根拠には、人の身体の生理やつくりといった解剖学、あるいは動きいった人間工学、日常生活における家政学など実にさまざまな学問が背景にあります。アセスメントにはこうした知識や、利用者の生活ニーズや生活歴などの属性を統合し、評価し、利用者に見合った的確な介護技術を提供できるようについて学ぶ。

3授業の方法

介護技術の基礎練習では人形モデルを使用して演習を行う。各学生がモデルと介護者になり互いの気持ちを理解できるようになる演習を実施する。実際の場面では利用者に対するコミュニケーションが重要であることを理解させ、演習の際もコミュニケーションを中心に演習を行う。ＤＶＤ（介護技術）を視聴、技術の基礎を学ぶ。

4　成績評価方法・基準

定期試験（筆記）	50%
技術	30%
授業態度	20%

5　評価の際の特記事項

定期試験、積極的に介護技術の演習に取り組み、演習の際の身だしなみ、声の出し方など授業態度を評価する。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿って予習、復習をすること。
演習が十分できなかった場合は、次の演習時間までに習得しておくこと。

7　教科書・参考図書

最新・介護福祉士養成講座６　生活支援技術Ⅰ　中央法規出版　第３版
最新・介護福祉士養成講座７　生活支援技術Ⅱ　中央法規出版　第３版

8　学生へのメッセージ

身だしなみを整え、積極的・意欲的な姿勢で見学・演習に臨んでください。
まず、利用者に理解できるように、的確に声を出すことを学びましょう。

9　教員氏名（　　村上　健太　　）

所　　属（　こころ医療専門学校壱岐校　介護福祉科　）

実務経験（介護施設において介護職員として勤務経験あり）

10　特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（　生活支援技術　D（実技基礎）　）

回数	授業内容
1	基本となる介護技術とは何か　生活支援技術の意味　介護の専門性について
2	アセスメントとは何か　アセスメントの意味、プロセスについて
3	アセスメントとＩＣＦについて　ＩＣＦの考え方とアセスメントの実際
4	ＩＣＦの考え方とアセスメント　ＩＣＦの構成要素
5	身じたくの意義と目的　身じたくの種類と意義　ＴＰＯに応じた身じたく
6	演習：身じたくにおける介護技術　整容、口腔ケア、衣服の着脱（評価）
7	移動の意義と目的　移動・移乗の介護の基本的理解
8	移動の介護における他職種の役割　長期臥床による影響　移動におけるアセスメント
9	演習：移動におけるボディメカニクスを応用　ベッド上での移動介助
10	演習：移動の介護　・車いす・杖方向・ウオーカーケイン・階段での介助方法など
11	食事における介護技術　食事におけるアセスメント　環境つくり
12	演習：食事における介護技術方法　誤嚥・窒息の防止　脱水の予防
13	演習：食事における介護技術方法　片麻痺のある人の介助方法（評価）
14	演習：食事における介護技術方法　寝たきりの人の介助方法（評価）
15	確認試験
16	答案返却　解説
17	入浴・清潔保持の意義と目的　入浴・清潔保持におけるアセスメント
18	入浴の介護に必要な情報　多職種との協働
19	演習：入浴の介助　部分浴に介助　清潔保持の介助　入浴中の事故について
20	排泄における介護の意義と目的　自立支援を排泄の介護
21	演習：排泄の介護の実際　排泄介助の方法　使用する物品の説明
22	演習：排泄の介護の実際　トイレ介助、オムツ交換方法、尿器の使用方法等
23	演習：排泄の介護の実際　トイレ介助、オムツ交換方法、尿器（評価）
24	睡眠の介護における他職種の役割と協働　安眠できるベッドメーキング
25	睡眠の介護における介護職の役割　他職種連携の実際　睡眠アセスメントの実際
26	演習：安楽な姿勢の体験　安楽な姿勢にための適切道具の使用方法
27	終末期の介護における他職種の役割と介護　終末期ケアの意味について
28	終末期ケアにおける介護職の役割　家族支援の必要性
29	演習：事例を通して介護技術の流れを行う（評価）
30	演習：移動、入浴、食事、排泄、介護の評価を行う
31	定期試験
32	答案返却　解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　生活支援技術　E（実技応用）　）

学科名　　介護福祉科
学年　1　年

1　授業の内容
基本的な介護技術を用いて、その人の状態、状況に合わせた安心、安全な知識、技術を展開していく。実習で習得したさまざまな介護技術を持ち帰り、改めて介護技術の向上を図り個別ケアの重要性を理解することを学ぶ。

2　到達目標
被援助者の生活全体を見ながら、どのような支援が適切か、また利用者の潜在能力を引き出すような支援とは何かを考えながら安心、安全な技法を習得できる。個別ケアを行う場合に尊厳の保持、自立支援を基本に技術の展開ができるようになる。

3　授業の方法
施設実習で学んだ介護技術を参考に、介護サービスを提供する際の障害や疾病を理解したうえで、実践する介護行為の根拠となるものを考える。

4　成績評価方法・基準
定期試験（筆記）　50%
実技（授業内評価）　30%
授業態度　20%

5　評価の際の特記事項
定期試験、演習時の授業態度、身だしなみを評価します。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
授業計画に沿って予習、復習をしてください。特に技術の課題があった場合は復習をしっかりして次回の授業に備えること。

7　使用教材・教具
最新・介護福祉士養成講座６　生活支援技術Ⅰ　中央法規出版　第３版
最新・介護福祉士養成講座７　生活支援技術Ⅱ　中央法規出版　第３版

8　学生へのメッセージ
利用者に対して、尊厳の保持、自立支援を理解しながらインフォームド・コンセントを基本に介護技術が提供できるようになりましょう。

9　教員氏名（　村上　健太　）
所　属（　こころ医療福祉専門学校壱岐校　介護福祉科　）
実務経験（介護施設において介護職員として勤務経験あり）

10　特記事項
実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（　生活支援技術　E（実技応用）　）

回数	授業内容
1	個別援助計画に沿って介護技術を展開していくことを理解する
2	高齢者や個別的な障害児・者に対する介護技術の展開を行う
3	身じたくの意義と目的　　身じたくの種類
4	（実技）衣類の着脱の方法、障害がある人の着脱、寝たきりの人の着脱方法
5	整容における介護　　口腔ケアのおけるアセスメント
6	（実技）口腔ケアの実際　　義歯の装着方法　義歯の手入れの方法
7	整容における介護　　障害のある人の洗顔　　寝たきりの人の整容
8	安全・安心の移乗の方法　　ボディメカニクスに沿った移乗方法
9	（実技）屋外での車いす介助方法　　障害物の対応の仕方　安全・安心な介助方法
10	障害児・者の移乗介助の方法　　障害の疾病となる病識を理解する
11	（実技）移乗の実際　　ベッドから車椅子移乗　　車いすからベッドへの移乗方法
12	車いすの介助方法　　屋内での車いす介助、　屋外での車椅子介助の留意点
13	（実技）屋外での車いす介助方法　　障害物の対応の仕方　安全・安心な介助方法
14	片麻痺の人の歩行の介助方法　　障害の理解
15	確認試験
16	答案返却　解説
17	食事の介助方法　　介助が必要な人の障害の理解
18	（実技）片麻痺の人の食事介助の実際　　誤嚥予防の介助方法
19	入浴・清潔保持における入浴介助の実際
20	（実技）片麻痺のある人の入浴介助　　障害に合わせた介助方法の留意点
21	入浴・寝たきりの人の入浴介助の実際　　入浴前後のバイタルの留意点
22	（実技）特殊入浴器を使用した入浴介助の実際　　使用物品の準備・確認
23	排泄における介助の留意点　　頻尿、尿失禁、便秘、下痢、便失禁への対応
24	（実技）尿器、差し込み便器の使用方法　　排泄のための道具、用具の理解
25	排泄の介助のチェックポイント　他職種協働による介助の留意点
26	（実技）寝たきりの人の介助の実際
27	終末期における介助技術の提供
28	（実技）整容、身だしなみ、安楽な体位変換、口腔ケア、医療との連携
29	実技の評価　　食事介助、移乗移動の介助
30	実技の評価　　着脱の介護、排泄の介助
31	定期試験
32	答案返却　解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　生活支援技術Ｆ(点字)　）

学科名　　介護福祉科

学年　１年

1　授業の内容

言語・コミュニケーション文化のひとつである点字の技法の学習を通じて、視覚に障害がある人への理解を深めその支援の在り方を共に考える。

情緒支援や移動支援、福祉制度の学習を通じて、支援のための実践的な知識とコミュニケーション能力を養う。

点字については、その簡単な読み書きが出来るように基礎的な実技の習得を目標とする。

2　到達目標

視覚障害の特性に応じた基本的な情報コミュニケーション支援と移動コミュニケーション支援ができる。点字の実技については、点字で簡単なメモのやり取りができる。

3　授業の方法

講師自身が視覚障害であり、点字、視覚障害者の心理や生活の不便さ、適切な支援の方法を学ぶことで視覚障害に対しての理解が深まることを期待する。

4　成績評価方法・基準

レポート	80%
授業態度	20%

5　評価の際の特記事項

私との積極的なコミュニケーションや学内での様々なサポートについても加味する。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿って予習、復習をしてください。特に技術の課題があった場合は復習をしっかりして次回の授業に備えること。

7　使用教材・教具

『初めての点訳』　NPO法人全国視覚障碍者情報提供施設協会

『臨床に必要な障害者福祉―障害者福祉論』（福祉臨床シリーズ９）弘文堂

『世界の盲偉人』　指田忠司著　桜雲会

『視覚障害教育入門』　青柳まゆみ　鳥山由子著　ジアース教育新社

『ひとりで学べるたのしい点字』

8　学生へのメッセージ

私自身が全盲の視覚障害当事者ですので、学生の皆さんにとって私との関わり合いそれ自体が生きた学びとなります。学内での移動や講義運営におけるサポートなど、皆さんの主体的で積極的な協力が是非とも必要です。一緒によい授業を創っていきましょう！どうぞよろしくお願いします。

9　教員氏名（　吉住　寛之　）

所　　属（　こころ医療福祉専門学校壱岐校　非常勤講師　）

実務経験（　盲学校・医療短期大学・看護福祉大学等での教諭・講師の経験あり）

10　特記事項

実務経験のある非常勤講師による授業。

科目名（生活支援技術Ｆ(点字)）

回数	授業内容
1	ガイダンス・視覚に障害のある人の状況について
2	点字の基礎　　1　（歴史、しくみ、読み方、書き方等）
3	点字の基礎　　2　（五十音等）
4	語の書き表し方　（仮名遣い、数字、アルファベット）
5	分かち書きについて
6	情報コミュニケーション支援について　　視覚障害の理解
7	移動コミュニケーション支援について　　演習:目隠しして歩く、サポート方法を学ぶ
8	点字のまとめ　点字名刺作成ワークショップ

シラバス（授業計画書）

科目名（　　生活支援技術Ｆ（手話）　　）

学科名　　介護福祉　　科

学年　　１　年

1　授業の内容

聴覚障害について学習する。「聞こえない」「聞き取れない」先天的聴覚障害や中途障害者の「生活のしにくさ」、障害に対する需要の経過（障害を受け入れる）こころの変化にどうすれば寄り添うことができるかなど学び、聴覚障害者及び重複障害者とのコミュニケーション方法を学習する。

2　到達目標

手話で自己紹介ができるようになる。

聴覚障害・重複障害者、中途障害者への理解を深める

3　授業の方法

基礎的な手話の挨拶から数の数え方、簡単な童謡を手話で行うことができるようになる。

手話を使う際に顔の表情やボディーランゲージが必要なことを理解する。

4　成績評価方法・基準

定期試験	40%
授業態度	20%
実技試験	40%

5　評価の際の特記事項

授業中　真面目な態度で取り組んでいるかを見ます。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎日の生活から手話を使って練習すること。簡単な歌を手話でできるようになること。

7　使用教材・教具

入門　　新手話教室

8　学生へのメッセージ

聴覚障害者が社会でどのような不便を感じているかを知り自分が習得したコミュニケーション方法で支援ができるように努力してほしいと思います。

9　教員氏名（　　豊島　なぎさ　　）

所　　属（　こころ医療福祉専門学校壱岐校　非常勤講師　）

実務経験（　学校での手話指導・公民館での「手話講座」講師　）

10　特記事項

非常勤講師による授業。

科目名（生活支援技術Ｆ　（手話））

回数	授業内容
1	・ミニ講座「聴覚障害について」　・指文字　・自分の名前、いろいろな挨拶を手話で表す
2	・ミニ講座　・指文字と前回の復習　・数の表し方（誕生日、年齢など）・家族について
3	・ミニ講座　・指文字と前回の復習　・趣味や仕事を表す　・住所出身地国の名前など
4	・ミニ講座　・指文字と前回の復習　・今まで学んだ手話を使って自己紹介　・曜日、季節、天気、気候など
5	・手話歌　・指文字と前回の復習　・気持ちの表現、反対言葉　・疑問、否定、肯定など
6	・手話歌　・指文字と前回の復習　・いつ、だれ、どこなど　・いろいろな生活場面での会話
7	・手話歌　・指文字と前回の復習　いろいろな生活場面での会話　・手話スピーチの準備
8	定期試験
9	答案返却　　解説　　スピーチ発表・学習のまとめ

シラバス（授業計画書）

科目名（　　介護過程Ⅰ　　）

学科名　　介護福祉科
学年　　1　年

1　授業の内容
介護福祉士に求められる専門知識・技術を根拠とした、客観的で科学的な思考過程による介護過程の展開が求められる。このような介護過程の展開に基づいた生活支援が、利用者の「尊厳を守るケア」「個別ケア」を実現することを教授する。

2　到達目標
対象となる高齢者や障害のある方の生活支援の根拠として、アセスメント（情報も収集）、課題の明確化、課題に対して長期目標・短期目標を考え介護計画を考えることができ、計画の実践が的確にできる。ケアプランとの関連性を理解できるようになる。

3　授業の方法
介護過程に必要なアセスメント方法、情報の分析、課題を考えることができる。
ケアマネジメントと介護過程の関係を理解すること。施設実習の際には介護計画の作成ができるように学ぶ。

4　成績評価方法
定期試験　　80%
授業態度、提出物　20%

5　評価の際の特記事項
定期試験、積極性のある授業態度を評価する。
個別援助計画の作成ができ、提出期限を守ることを評価する。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
授業計画に沿って授業の予習・復習ができること
個別援助計画を完成するように時間外でも作成に取り掛かること。

7　使用教材・教具
最新・介護福祉士養成講座　　介護過程　　中央法規出版　第2版

8　学生へのメッセージ
「利用者を知ること」の大切さ、思考過程を理解し、アセスメントの重要性、介護計画の作成ができる。ケアプランとの関連性、個別ケアの重要性を理解できるようにしましょう。

9　教員氏名（　　梅山　由香　　）
所　　属（こころ医療福祉専門学校壱岐校　介護福祉科）
実務経験（介護施設において介護職員として勤務経験あり）

10　特記事項
実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（ 介護過程Ⅰ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション（介護とは）
2	介護過程について①（意義・目的）
3	介護過程の全体像①
4	介護過程の全体像②
5	演習問題（1-1　1-2）
6	事例検討と事例研究
7	倫理的拝領、介護福祉分野で使用する「計画」
8	介護過程の展開①
9	アセスメント（情報収集）と ICF
10	アセスメント（情報の解釈・関連付け・統合化）①
11	アセスメント（情報の解釈・関連付け・統合化）②
12	演習問題（2-1　2-2）
13	演習問題（2-3　2-4　2-5）
14	前期まとめ
15	前期　確認試験
16	答案返却　　解答解説
17	介護計画の立案について
18	介護の実施について
19	評価について
20	介護過程の実践的展開
21	「介護過程」展開の実際
22	事例１①グループホームにおける認知症高齢者
23	事例１②
24	事例２①脳性麻痺のある男性
25	事例２②
26	事例３①在宅における脳血管疾患のある女性
27	事例３②
28	事例４①介護老人福祉施設におけるターミナル期の女性
29	事例４②
30	後期まとめ
31	後期　確認試験
32	答案返却　　解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　介護過程Ⅱ（ケアマネジメント）　）

学科名　　介護福祉科

学年　　2　年

1　授業の内容

介護福祉士には、専門知識・技術を根拠とした、客観的で科学的な思考過程による介護過程の展開能力が求められる。このような介護過程の展開に基づいた生活支援が利用者の「尊厳を守るケア」「個別ケア」を実現することを理解する。

2　到達目標

ＩＣＦ，社会モデル、目標向上プログラムの関連性が理解できる。
実習第２段階で実践した個別ケアにおける介護過程「個別援助計画書」を振り返り、利用者を取り巻く状況や利用者個人の生活と「全人的ケア」とは何かを学ぶ。

3　授業の方法

事例を通して事例者のアセスメント表を作成できる。
施設実習で対象者を決めた後、作成したアセスメントの分析を行い同時に対象者の課題を考えることができる。

4　成績評価方法・基準

定期試験　　80%
授業態度　　20%

5　評価の際の特記事項

定期試験、授業態度
提出物が期限内に提出すること。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿って予習、復習をすること。
個別援助計画を期限内に提出できるよう作成すること。

7　使用教材・教具

最新・介護福祉士養成講座　　介護過程　中央法規　第２版
アセスメント表

8　学生へのメッセージ

介護過程における思考過程とは何か、ＩＣＦの理念が理解でき、アセスメントから利用者の生活困難の場面を考え、「生活のしづらさ」という課題の明確化を考えることができるようになりましょう。

9　教員氏名（　　梅山　由香　　）

所　　属（こころ医療福祉専門学校壱岐校　介護福祉科）
実務経験（介護施設において介護職員として勤務経験あり）

10　特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名　　介護過程Ⅱ・(ケアマネジメント)

回数	授業内容
1	オリエンテーション・介護過程復習
2	ケアマネジメントの全体像
3	ケアマネジメントと介護過程の関係
4	チームアプローチの意義
5	チームアプローチの実際
6	演習４－２
7	介護福祉士の仕事の魅力
8	事例１　都会に住む一人暮らしの憂い者の生活支援
9	事例２　離島出身の高齢者の宅復帰
10	事例３　ターミナル迎える高齢者と家族の生活支援
11	事例４　医療的な処置が必要な高齢者の生活支援
12	事例５　片麻痺のある高齢者の夢の実現に向けた支援
13	事例６　災害によって千勝環境を大きく変化せざるをえなかった高齢者への支援
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却　　解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　介護過程Ⅲ　）

学科名　介護福祉科
学年　2　年

1　授業の内容
１年次に学んだ介護過程の展開について、さらに理解を深めるよう復習します。
実際の介護現場において利用者一人ひとりに応じた個別援助計画を立案できるよう、とくに第２段階実習後は、さまざまな事例について学ぶ。介護過程を展開していくにあたり個別ケア―が実践できるようになる。

2　到達目標
利用者に必要な支援が何か考え、全人的ケアの理解が出来る。
利用者一人一人に応じた個別援助計画を立案・実施できる。

3　授業の方法
第Ⅲ段階施設実習において各自が担当した利用者の介護計画を立案、計画に沿ってサービスの実施、評価までを実習指導者を招いて発表会を実施する。行動した介護計画の改善する部分について意見交換ができるようにする。

4　成績評価方法・基準
定期試験　80%
授業評価　20%

5　評価の際の特記事項
授業中の積極的な意見の交換、グループワークでは協調性があるかを評価する。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
個別援助計画の作成に関しては、予習、復習をすること。

7　使用教材・教具
プリント（事例研究）配付

8　学生へのメッセージ
ＩＣＦの理解、社会モデルとの統合化をしながら個別援助計画の作成ができます。
個別援助計画を作成する際、情報収集の方法、情報から課題を明確化にし、計画立案、ケアの実施、評価に至るまで学生自らの判断で作成する。また多職種との協働とはなにかを理解しましょう。

9　教員氏名（　梅山　由香　）
所　属（こころ医療福祉専門学校壱岐校　介護福祉科）
実務経験（介護施設において介護職員として勤務経験あり）

10　特記事項
実務的経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（　介護過程Ⅲ　）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	実習書類の見直し（アセスメント・ケアプラン等）
3	対象事例１の説明・考察①
4	対象事例１の考察②
5	対象事例１考察③
6	対象事例１考察・発表
7	対象事例２の説明・考察①
8	対象事例２の考察②
9	対象事例２の考察③
10	対象事例２の考察・発表
11	対象事例３の説明・考察①
12	対象事例３の考察②
13	対象事例３の考察③
14	対象事例３の考察・発表
15	事例検討の気づき発表①
16	事例検討の気づき発表②
17	国家試験対策　介護領域模擬問題
18	国家試験対策　介護領域模擬問題　解答解説
19	国家試験対策　介護領域模擬問題
20	国家試験対策　介護領域模擬問題　解答解説
21	国家試験対策　介護領域模擬問題
22	国家試験対策　介護領域模擬問題　解答解説
23	国家試験対策　介護領域模擬問題
24	国家試験対策　介護領域模擬問題　解答解説
25	国家試験対策　介護領域模擬問題
26	国家試験対策　介護領域模擬問題　解答解説
27	国家試験対策　介護領域模擬問題
28	国家試験対策　介護領域模擬問題　解答解説
29	介護過程振り返り
30	確認試験
31	答案返却　　試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　介護総合演習Ⅰ　）

学科名　介護福祉科

学年　1年

1　授業の内容

介護実習の意義、必要性を理解するために施設概要等について学ぶ。実習に向けての心構え、記録の書き方、礼儀、マナー、施設の理解、実習書類の準備など行い、実りある実習が行えるようにする。また、実習終了後には報告会を実施し、振り返りを行なう。利用者の尊厳の保持、自立支援を基本に実習に取り組むことができる。

2　到達目標

他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢、円滑なコミュニケーションの取り方の基本、的確な記録・記述の方法、人権擁護の視点、職業倫理を身に付ける。
尊厳の保持、自立支援を基本に学校で学んだ介護技術を展開でき、安心・安全な技術を実践できるようになる。

3　授業の方法

第Ⅰ段階施設「実習における心構え」の徹底指導、報告・連絡・相談の重要性を学ぶ。
実習に必要な書類、介護レポートの書き方を練習する。

4　成績評価方法・基準

定期試験　80%
授業態度　20%

5　評価の際の特記事項

定期試験、授業態度
実習における資料の作成、実習に向けた積極的な取り組みかたを評価する。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿った予習、復習をすること。
日頃から、高齢者や障害のある方に関心を持つように努力すること。

7　使用教材・教具

最新・介護福祉士養成講座　介護総合演習・介護実習　　中央法規出版　第2版

8　学生へのメッセージ

コミュニケーションの基本である「笑顔」と「挨拶」を徹底しましょう。
自分の課題・目標、利用者の状況把握・課題等について、幅広い視野を持って明確化できるようにします、「言葉」を大切にしていきましょう。

9　教員氏名（　梅山　由香　）

所　属（こころ医療福祉専門学校壱岐校　介護福祉科）
実務経験（介護施設において介護職員として勤務経験あり）

10　特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（　介護総合演習Ⅰ　）

回数	授業内容
1	オリエンテーション　介護実習について
2	各施設調べ学習①
3	施設見学
4	実習先選定・実習書類配布・記入
5	実習記録の書き方
6	実習前指導
7	実習振り返り・お礼状作成
8	実習報告準備①
9	実習報告準備②
10	実習報告
11	実習報告の気づきまとめ
12	レクリエーション準備①
13	レクリエーション準備②
14	レクリエーション実施・気づきまとめ
15	前期確認テスト
16	確認テスト解答解説
17	各施設調べ学習①
18	各施設調べ学習②
19	実習先選定・実習書類配布・記入
20	実習記録の書き方
21	アセスメント演習①
22	アセスメント演習②
23	実習前指導
24	実習振り返り・お礼状作成
25	実習報告準備①
26	実習報告準備②
27	実習報告準備③
28	実習報告発表
29	実習報告の気づきまとめ・発表
30	日本の行事を知る・発表
31	定期試験
32	答案返却　　試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　介護総合演習Ⅱ　）

学科名　介護福祉科

学年　2年

1　授業の内容

介護実習に必要な知識や技術、記録の書き方、介護過程の展開などについて学ぶ。実習終了後には、今後の課題を自ら見出す力を身に付けられるよう振り返り学習を行う。
実習で利用者と対峙する場合は、尊厳と自立支援、利用者自身が選択できるようにインフォームドコンセントを行うことができるよう介護技術を学ぶ。

2　到達目標

他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢、円滑なコミュニケーションの取り方の基本、的確な記録・記述の方法、人権擁護の視点、職業倫理を身に付ける。
尊厳の保持、自立支援を基本に学校で学んだ介護技術を展開でき、安心・安全な技術を実践できるようになります。

3　授業の方法

第Ⅲ段階実習における実習時の行動のあり方、実習記録の書き方を徹底して学ぶ。
実習現場では、自ら考え自らが積極的な行動ができるように学ぶ。

4　成績評価方法・基準

定期試験	80%
授業態度	20%

5　評価の際の特記事項

定期試験、授業態度
実習における資料の作成、実習に向けた積極的な取り組みかたを評価します

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿った予習、復習をすること
日頃から、高齢者や障害のある方に関心を持つように努力してください。

7　使用教材・教具

最新・介護福祉士養成講座　介護総合演習・介護実習　　中央法規出版　第2版

8　学生へのメッセージ

コミュニケーションの基本である「笑顔」と「挨拶」を徹底しましょう。
自分の課題・目標、利用者の状況把握・課題等について、幅広い視野を持って課題を明確化できるようにしましょう、常日頃から「言葉」を大切にしていきましょう。

9　教員氏名（　梅山　由香　）

所　属（こころ医療福祉専門学校壱岐校　介護福祉科）
実務経験（介護施設において介護職員として勤務経験あり）

10　特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（　介護総合演習Ⅱ　）

回数	授業内容
1	オリエンテーション　　2段階実習発表まとめ
2	2段階実習報告会
3	3段階実習の意義と目的
4	実習先選定・実習書類配布・記入①
5	実習先選定・実習書類配布・記入②
6	実習目標の設定
7	実習書類の作成について（個別援助計画書等）①
8	実習書類の作成について（個別援助計画書等）②
9	実習書類の記入について（個別援助計画書等①　事前オリエンテーション説明
10	実習書類の記入について（個別援助計画書等）②
11	実習直前　実習前指導
12	実習終了後　実習振り返り
13	実習報告準備①
14	実習報告準備②
15	確認試験
16	答案返却　　試験解説
17	前期振り返り　　実習報告準備
18	実習報告発表
19	動画視聴「老いを味わえばいい　youtube 」　考察
20	事例検討（グループワーク）①
21	事例検討（グループワーク）②
22	事例検討（グループワーク）③
23	事例検討発表
24	国家試験対策　介護領域模擬問題
25	国家試験対策　介護領域模擬問題　解答解説
26	国家試験対策　介護領域模擬問題
27	国家試験対策　介護領域模擬問題　解答解説
28	国家試験対策　介護領域模擬問題
29	国家試験対策　介護領域模擬問題　解答解説
30	総合演習まとめ
31	定期試験
32	答案返却　　試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　　第Ｉ段階実習　　）

学科名　　介護福祉科

学年　１　年

1　授業の内容

介護実習は臨地で利用者との関わりを通して、専門職となるために必要な「実践力」を養うための体験学習である。実習では各領域で習得する知識や技術の統合を図ることが求められている。さらに、介護福祉士の役割を理解し、自らの介護観を形成することが必要になる。

2　到達目標

利用者個々の生活リズムや個性を捉え、適切なコミュニケーションができる。
尊厳の保持、自立支援を理解してコミュニケーションを実践する。

3　授業の方法

ＤＶＤ「職務理解」視聴、実習施設の種類、施設の役割を知る。
実習に必要な書類の確認、実習のしおり、実習記録、プロセスレコードの書き方を学ぶ。
実習期間の行動について、積極的な実習の仕方、報告・連絡・相談の重要性を理解する。

4　成績評価方法・基準

実習評価表、実習態度を評価する。
実習課題の作成を提出する。

5　評価の際の特記事項

提出資料を期限内に提出できたか、実習態度を評価する。
施設指導者と巡回担当教員で評価する。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習前日の資料の点検をすること。
実習に必要な物品の確認をすること。

7　使用教材・教具

「実習のしおり」参考にする。
必要に応じて各科目の教科書を参考にする。

8　学生へのメッセージ

学内では学べない技術や他職種の活動状況を積極的に学んで実践してください。
施設の機能や施設を利用している利用者、また他職種の業務内容も学んでください。

9　教員氏名（　　梅山由香・野田比呂恵・村上　健太　　）
所　　属（こころ医療福祉専門学校壱岐校　介護福祉科　　）
実務経験（介護施設・病院において介護職員・看護師として勤務経験あり）

10　特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業及び巡回指導。

科目名（　第Ｉ段階実習　）

回数	実習内容
1	実習期間　　見学実習　１０日間
2	・実習先の選定
3	・実習のしおり、　実習目標、　　個人票の作成、　　提出書類の確認
4	・実習先へ実習オリエンテーションの連絡依頼
5	・実習前指導　　挨拶の仕方　　実習指導の受け方等
6	・実習開始　　毎日の介護記録の記載
7	積極的な実習を行うこと
8	・実習終了　　挨拶の仕方　　提出書類の変換確認をする
9	・実習後指導　　介護記録の提出　　振り返りの（礼状）を書く

シラバス（授業計画書）

科目名（　　第Ⅱ段階実習　　）

学科名　　介護福祉科

学年　　1　年

1　授業の内容

介護実習は臨地で利用者との関わりを通して、専門職となるために必要な「実践力」を養うための体験学習である。実習では各領域で習得する知識や技術の統合を図ることが求められている。さらに、第Ⅱ段階では技術の習得を目指すため、実習指導者へ積極的な働きかけにより適切なアドバイスを受ける。また個別援助計画を立案するため個別ケアの実践を行い「アセスメントシート」を完成させる。

2　到達目標

利用者の個々の生活リズムや個性を捉え、介護過程に沿った個別ケアを考える。

ＩＣＦを活用し、アセスメントから課題の明確化までの介護過程を作成する。

3　授業の方法

実習に必要な書類の確認、実習のしおり、実習記録、プロセスレコードの書き方を学ぶ。

積極的な実習の学び、報告・連絡・相談の重要性を理解する。利用者、職員とのコミュニケーションを密に行い、情報収集、情報の分析を行い、アセスメント表を作成する。

4　成績評価方法・基準

実習評価表、実習態度を評価する。

介護記録、実習課題（アセスメント）、の作成を提出する。

5　評価の際の特記事項

提出資料を期限内に提出できたか、実習態度を評価する。

施設指導者と巡回担当教員で評価する。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習前日の資料の点検をすること。

実習に必要な物品の確認をすること。

7　使用教材・教具

「実習のしおり」参考にする。

必要に応じて各科目の教科書を参考にする。

8　学生へのメッセージ

学内では学べない技術や他職種の活動状況を積極的に学んで実践しましょう。

アセスメントの作成では、利用者とのコミュニケーションが重要になります。

尊厳の保持を念頭に適切なコミュニケーションを図りましょう。

9　教員氏名（　　梅山由香・野田比呂恵・村上健太　　）

所　　属（　こころ医療福祉専門学校壱岐校　介護福祉科　　）

実務経験（介護施設・病院において介護職員・看護師として勤務経験あり）

10　特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業及び巡回による指導。

科目名（　第Ⅱ段階実習　）

回数	授業内容
1	第Ⅱ段階実習　　実習期間２２日
2	・実習先の選定
3	・実習のしおり、　実習目標、　　個人票の作成、　　提出書類の確認
4	・実習先へ実習オリエンテーションの日程を学生自ら連絡し依頼する
5	・実習前指導　　挨拶の仕方　　実習指導（アドバイス）の受け方等
6	・実習開始　　毎日の介護記録の記載
7	技術の習得に関して積極的な行動をすること
8	・実習終了　　挨拶のしかた　　提出書類の変換確認をする
9	・実習後指導　　介護記録の提出　　振り返りの（礼状）を書く
10	（第Ⅱ段階課題）
11	アセスメント表作成
12	実習１週　　アセスメント対象者の選定、コミュニケーション
13	実習２週　　情報収集　コミュニケーション
14	実習３週　　情報収集　コミュニケーション
15	実習４週　　課題の明確化を図る
16	実習終了後、個別援助計画の研究発表を行う

シラバス（授業計画書）

科目名（　第Ⅲ段階実習　　）

学科名　　介護福祉科

学年　2　年

1　授業の内容

個別ケアを行うため個別援助計画作成を立案する。個別ケアの実践において個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の生活課題を明確にして実践する。実施後の評価やこれを踏まえた個別計画の修正といった介護過程の展開し、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。

2　到達目標

地域で暮らす高齢者・障害者がその人らしさを維持しながら生活する状況を理解する。
介護過程を学んだ思考のプロセスを実際の利用者を受け持ちながら、計画を実践する。
施設の機能や基本的な生活支援技術について学ぶ。

3　授業の方法

実習に必要な書類の確認。利用者、職員とのコミュニケーションを密に行い、情報収集、情報の分析、介護計画の作成、評価まで行う。積極的な実習の学び、報告・連絡・相談の重要性を理解する。

4　成績評価方法・基準

実習評価表、実習態度を評価する。
介護記録、実習課題（個別援助計画書）の作成を評価する。

5　評価の際の特記事項

実習資料を期限内に提出できたか、また実習態度も評価する。
施設実習指導者と巡回教員と評価する。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習前日に実習の必要な物品や記録の確認をすること。

7　使用教材・教具

最新・介護福祉養成講座　　介護過程　　中央法規　第２版
必要に応じて各科目の教科書を参考にする。
「実習のしおり」を参考にする。

8　学生へのメッセージ

学内では学べない技術等の指導を受け積極的に行動しましょう。
個別援助計画の作成のためのアセスメントから評価まで、対象となる利用者の尊厳を守りながらコミュニケーションを図り個別援助計画を作成しましょう。

9　教員氏名（　梅山由香・野田比呂恵・村上健太　　）
所　　属（こころ医療福祉専門学校壱岐校　介護福祉科　　）
実務経験（介護施設・病院において介護職員・看護師として勤務経験あり）

10　特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業及び実習巡回による指導。

回数	授業内容
1	第Ⅲ段階実習　　実習期間２５日間
2	・実習の選定
3	・実習資料の確認　　実習のしおり　　実習目標　　個人票の作成 個別援助計画資料
4	・実習先へ実習オリエンテーションの連絡依頼
5	・実習前指導　　挨拶の仕方　　実習指導の受け方など
6	・実習開始　　毎日の介護記録の記載
7	技術の習得に関して積極的な行動をすること
8	・実習終了　　挨拶の仕方　提出物の返還確認をする
9	・実習後指導　介護１記録の提出　　振り返りの（礼状）を作成する
10	（第Ⅲ段階　実習課題）
11	個別援助計画作成
12	実習１週　　コミュニケーション　　計画対象者の確定
13	実習２週　　アセスメント作成情報収集　　コミュニケーション
14	実習３週　　個別援助計画作成
15	実習４週　　計画の実施
16	実習５週　　実施の評価　　再アセスメントまで
17	実習終了後、個別援助計画の研究発表を行う

シラバス（授業計画書）

科目名（　　障害の理解　　）

学科名　　介護福祉科

学年　　２年

1　授業の内容

障害についての基礎知識を学習し、障害のある人の身体機能や心理面などその特性を理解し、当事者の思いや生活実態を踏まえながら、障害の概念を学ぶ。また障害福祉の基本理念となるノーマライゼーション、リハビリテーションについて障害者と生活を学び知ることで、家族を含めた支援と地域連携についての理解も深める。

2　到達目標

障害とは何か説明でき、障害者と社会との関連や、どのように支援していくのかそれぞれの障害ごとに説明できる。

ＩＣＦの理解を深め、他の科目との関連性を述べることができる。

3　授業の内容

障害福祉の基本的理念であるノーマライゼーションについて理解を深める。

高齢者や障害のある人の疾患や特性を理解する。

介護が必要になった場合の「生活のしづらさ」を学び、支援方法を考える。

教科書を使用し、重要項目を講義する。ビデオ教材を通して理解を深める。

4　成績評価方法・基準

定期試験　　80%

授業態度　　20%

5　評価の際の特記事項

定期試験、授業中の態度、積極的な発表や自分の考えを述べることを評価します

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿った予習、復習をしてくること。

配布した資料の見直しや復習をすること。

7　使用教材・教具

最新・介護福祉士養成講座 14　「障害の理解」　　中央法規出版（第２版、第３版）

最新・介護福祉士養成講座　8　「生活支援技術Ⅲ」　中央法規出版（第２版）

8　学生へのメッセージ

障害という側面だけでなく、障害のある人の生き方にどのように介護を展開していくのか人間理解も含めた学習をしていきましょう。

9　教員氏名（　　野田　比呂恵　　）

所　　属（こころ医療福祉専門学校壱岐校　介護福祉科）

実務経験の詳細（病院において看護師・保健師として勤務経験あり　）

10　特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（　障害の理解　）

回数	授業内容
1	障害の概念　わが国における障害者の法的定義
2	障害者福祉の基本的理念　　ノーマライゼーションなど
3	障害者福祉に関連する制度　　福祉サービスの内容
4	障害者にかかる法律の概要について学ぶ　　障害者福祉制度と介護保険制度
5	肢体不自由（運動機能障害）の特性、支援のあり方を理解する
6	視覚障害の特性を理解する　視覚障害のある人の生活と介護上の留意点
7	聴覚・言語障害の種類、原因を理解する　聴覚・言語障害の特性に応じた支援方法
8	重複障害の種類、原因を理解する　重複障害のある人の生活と支援方法
9	内部障害とは　①心臓機能障害　障害の特性の理解、障害の特性に応じた支援
10	②呼吸器機能障害　障害の特性の理解、障害の特性に応じた支援
11	③腎臓機能障害　障害の特性の理解、障害の特性に応じた支援
12	④膀胱・直腸障害　障害の特性の理解、障害の特性に応じた支援
13	⑤小腸機能障害　障害の特性の理解、障害の特性に応じた支援
14	前期振り返り
15	確認試験
16	答案返却　　試験解説
17	⑥ヒト免疫不全ウィルスによる免疫機能障害　障害の特性の理解と支援
18	⑦肝臓機能障害　障害の特性の理解、障害の特性に応じた支援
19	重症心身障害の特性と生活について理解する　医療支援と医療的ケアについて
20	知的障害の特性に応じた支援、介護上の留意点
21	精神障害の種類とその特性の理解　精神障害のある人への支援
22	高次脳機能障害の症状とおもな原因　障害のある人の生活と支援
23	発達障害の特性の理解　発達障害のある人の生活とその支援
24	難病に関する基礎的知識の理解　特性に応じた支援
25	地域のサポート体制　障害福祉サービスの利用のしくみ
26	連携と協働の基礎的な理解
27	チームアプローチとは
28	協働する多職種との連携
29	家族への支援とは　　家族の状態の把握と介護負担の軽減
30	全体のまとめ
31	定期試験
32	答案返却　　試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　こころとからだのしくみⅠ　）

学科名　　介護福祉科

学年　１年

1　授業の内容
介護技術の根拠となる人体の構造や機能を理解する。各介護技術に関連したこころとからだのしくみについて学習し、介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。

2　到達目標
健康とは何か、介護が必要な状態とは何かについて学び、精神的・身体的・社会的な健康を理解でき、介護福祉士として利用者の生活の困難さを測る基準を理解する。
生活場面ごとに、こころとからだのしくみ、身体機能の低下や障害が生活に及ぼす影響について理解し、介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮、個別的な介護技術方法について理解できる。

3　授業の方法
健康とは何かを考え、疾病や障害があることで日常生活に与える影響を学ぶ。
理解度を確認するために、小テストを実施する。
教科書に沿って、ＰＣプロジェクタを利用したパワーポイントによる授業。講義内容に関するグループワークを実施する。

4　成績評価方法・基準
定期試験　　80%　　授業態度　20%

5　評価の際の特記事項
定期試験、小テスト、予習・復習の成果も重要な評価をする。
授業態度、積極的な考え方の発言等を評価する。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
授業計画に沿って予習・復習に取り組むこと。
配布したプリントの見直しや復習をすること。

7　使用教材・教具
最新・介護福祉士養成講座 11　「こころとからだのしくみ」　中央法規出版（第２版）

8　学生へのメッセージ
自分自身の体のしくみとリンクさせながら学習を進めることで、老いに関する身体機能の変化や低下について理解を深めていきましょう。

9　教員氏名（　　野田　比呂恵　　）
所　　属（こころ医療福祉専門学校壱岐校　介護福祉科）
実務経験の詳細（病院において看護師、保健師として勤務経験あり）

10　特記事項
実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（　こころとからだのしくみⅠ　）

回数	授業内容
1	「健康」とはなにか　健康の定義　健康観について
2	こころのしくみを理解する　人間の欲求とは
3	自己実現と尊厳
4	こころのしくみの基礎　人間の欲求とは　　「こころ」とは何か
5	こころのしくみを理解する，認知・記憶・感情・動機づけ　など
6	こころのしくみを理解する　適応のしくみ
7	からだのしくみを理解する　人体の構造と機能
8	からだのしくみを理解する　細胞・遺伝・脳の構造・脊髄の構造
9	からだのしくみを理解する　脳・神経　　神経系の分類とはたらき
10	からだのしくみを理解する　感覚器（眼や耳の構造と名称）
11	からだのしくみを理解する　呼吸器・循環器
12	からだのしくみを理解する　消化器・泌尿器
13	こころ・からだのしくみに関する復習（小テスト）
14	こころ・からだのしくみに関する復習
15	確認試験
16	答案返却　　試験解説
17	からだのしくみを理解する　骨・筋肉・関節
18	からだのしくみを理解する　生殖器・内分泌・血液　　生命を維持するしくみ
19	移動に関連したこころとからだのしくみ　　移動のしくみ
20	移動に関連したこころとからだのしくみ　　心身の機能低下が移動に及ぼす影響
21	身じたくのしくみと心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響①
22	身じたくのしくみと心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響②
23	身じたくにおける変化の気づきと対応　身じたくを支援する際の観察のポイント
24	食事に関連したこころとからだのしくみ　食事のしくみ、摂食と嚥下運動
25	食事に関連したこころとからだのしくみ　心身の機能低下が食事に及ぼす影響
26	食事に関連したこころとからだのしくみ　変化の気づきと対応
27	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ　入浴・清潔保持のしくみ
28	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ　心身の機能低下が及ぼす影響
29	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ　変化の気づきと対応
30	後期授業の振り返り、小テスト
31	定期試験
32	答案返却　　試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　　こころとからだのしくみⅡ　　）

学科名　　介護福祉科

学年　２年

1　授業の内容

前期は各介護技術に関連したこころとからだのしくみについて学習し、介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。解剖学的な要素と介護技術への関連性を深めた理解を行う。今後ますます保健・医療・福祉との連携が重要となり、尊厳ある生活を護る専門職としての学びを深めることができるようにする。

2　到達目標

こころとからだのしくみを学ぶことで、介護技術の根拠となる人体の構造や機能および介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮についても理解する。個別的な介護技術方法について理解できる。

終末期の心身の変化と生活に及ぼす影響について学び、人生の最終段階にある人と家族を支援するために必要となる基礎的知識を理解する。

3　授業の方法

ＡＤＬに影響を及ぼす高齢者の「こころの動き」を学ぶことで、高齢者や障害のある人に対して、介護者が「共感すること」の意味を理解する。

教科書に沿ってＰＣプロジェクタを利用したパワーポイントによる授業。講義内容に関するグループワークを実施する。

4　成績評価方法・基準

定期試験　80%　　授業態度　20%

5　評価の際の特記事項

定期試験、授業態度、小試験の結果も評価する。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿って予習、復習をすること。

配布プリントの見直しや復習をすること。

7　使用教材・教具

最新・介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」　中央法規出版（第２版）

プリント配布資料

8　学生へのメッセージ

知識と技術の関連性、学校で学ぶことと実際で介護することの関連性を意識した学習を行いましょう。

学んだことを介護実習や介護過程に関連させるよう意識して学んで下さい。

9　教員氏名（　　野田　比呂恵　　）

所　　属（こころ医療福祉専門学校壱岐校　介護福祉科）

実務経験の詳細（病院において看護師・保健師として勤務経験あり）

10　特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（　こころとからだのしくみⅡ　）

回数	授業内容
1	1年次の振り返り学習
2	排泄に関連したこころとからだのしくみ　排泄のしくみ
3	排泄に関連したこころとからだのしくみ　心身の機能低下が排泄に及ぼす影響
4	排泄に関連したこころとからだのしくみ　変化の気づきと対応
5	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ　睡眠のしくみ
6	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ　心身の機能低下が及ぼす影響
7	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ　変化に気づくためのポイント
8	高齢による身体機能の変化と生活に及ぼす影響　「高齢者疑似体験」を通して学ぶ
9	高齢による身体機能の変化と生活に及ぼす影響　「高齢者疑似体験」を通して学ぶ
10	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方、死生観、グリーフケアについて
11	終末期から危篤状態、死後のからだの理解
12	終末期における家族への支援、多職種連携
13	こころとからだのしくみ　模擬試験
14	前期のまとめ　復習
15	確認試験
16	答案返却　　試験解説
17	こころのしくみを理解する　復習
18	心身の機能低下が生活に及ぼす影響と生活支援（認知症に関連した）
19	こころとからだのしくみ　模擬試験問題①
20	こころとからだのしくみ　解答解説①
21	からだのしくみ　脳・神経　他　　復習
22	こころとからだのしくみ　模擬試験問題②
23	こころとからだのしくみ　解答解説②
24	こころとからだのしくみ　全般の復習①　（模擬問題と解答解説）
25	こころとからだのしくみ　模擬試験問題③
26	こころとからだのしくみ　解答解説③
27	こころとからだのしくみ　全般の復習②（模擬問題と解答解説）
28	こころとからだのしくみ　模擬試験問題④
29	こころとからだのしくみ　解答解説④
30	こころとからだのしくみ　全般の復習③
31	定期試験
32	答案返却　　試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　　認知症の理解　　）

学科名　　介護福祉科

学年　１年

1　授業の内容

認知症についての基礎知識を学習し、認知症の人の心理面、認知症特有の症状やケアなどその特性を理解する。また、認知症の人と生活について学び知ることで、家族を含めた支援と地域連携についての理解も深める。

2　到達目標

①認知症とはどんな状態であるかを理解できる。
②認知症の特性について医学・行動・心理・生活面から理解できる。
③認知症に人の特性をふまえたアセスメント、本人主体の理念に基づいた認知症ケアについて理解できる。
④認知症の人を支える家族・地域・制度面を理解する。
⑤認知症に応じた的確な介護ができるようになる。

3　授業の方法

‘認知症キャラバンメイト’による講義を依頼し、認知症に対する理解を深める。啓蒙活動を理解する。グループワークのなかで、認知症の方の対応で困ることはなにか、対応方法などの意見を出し合い理解を深める。教科書、ＰＣプロジェクタを利用したパワーポイント、ビデオ教材による授業。

4　成績評価方法・基準

定期試験　　80％
授業態度　　20％

5　評価の際の特記事項

定期試験を中心に授業中の積極的な発表、協調性も評価する。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿った教科書の予習、復習をすること。
配布した資料の復習をすること。

7　使用教材・教具

最新・介護福祉士養成講座 13　「認知症の理解」　中央法規出版（第３版）

8　学生へのメッセージ

認知症に対する理解を深め、認知症の人の尊厳を守った介護実践に結びつけていきましょう。

9　教員氏名（　　野田　比呂恵　　）

所　　属（こころ医療福祉専門学校壱岐校 介護福祉科）
実務経験の詳細（病院において看護師・保健師として勤務経験あり）

10　特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（　　認知症の理解　　）

回数	授業内容
1	認知症のある高齢者の現状と今後
2	認知症とは何か　認知症の全体像や特徴
3	脳のしくみ
4	認知症の人の心理
5	中核症状とは何かを理解する　　代表的な中核症状について
6	生活障害の重要性を理解する
7	ＢＰＳＤ（認知症の行動・心理症状）の理解
8	認知症の診断と重症度
9	認知症の原因疾患の病態や症状、経過を理解する①
10	認知症の原因疾患病態や症状、経過を理解する②
11	認知症の原因疾患病態や症状、経過を理解する③
12	認知症の治療薬　認知症の予防
13	認知症ケアの変遷と今後の方向、認知症ケアの理念と視点
14	前期のまとめ
15	確認試験
16	答案返却　　試験解説
17	本人主体のケアとは。「パーソン・センタード・ケア」の考え方
18	認知症の人の生活理解　当事者の視点から考える
19	アセスメントツール①
20	アセスメントツール②
21	認知症の人とのコミュニケーション、認知症の人へのケア①
22	認知症の人へのケア②
23	認知症の人へのさまざまなアプローチ
24	認知症と環境　適切な環境づくりのポイント
25	家族への支援－家族介護者の現状と課題、レスパイトケア
26	介護福祉職への支援
27	認知症の人の地域生活支援－地域共生社会における認知症ケア①
28	認知症の人の地域生活支援－地域共生社会における認知症ケア②
29	認知症の人の地域生活支援－地域共生社会における認知症ケア③多職種連携と協働
30	全体のまとめ
31	定期試験
32	答案返却　　試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　　発達と老化の理解　　）

学科名　　介護福祉科

学年　　1年

1　授業の内容

人は一生（生まれてから死ぬまで、または受胎から死まで）のなかで、環境や文化、親や対人との相互作用から社会的・精神的に学び、成長し発達を続けていきます。この生涯に及ぶ成長発達を生涯発達心理としてとらえそれぞれの発達段階における生理・心理的特徴を理解する。

2　到達目標

生まれてから死ぬまでの成長・発達する過程を通して人を理解し、老年期における発達課題や高齢者に多い症状・疾病の特徴、老化がもたらす高齢者の生活への影響を身体的、精神的、社会的側面からとらえ、老化に伴う変化の特徴とその対応について必要な知識を学ぶ。

3　授業の方法

人間は、生まれてから死ぬまで成長するという発達段階について学ぶ。発達段階における個人の特性を理解し、老化に伴う外見上の変化と日常生活への影響を学ぶ。ＰＣプロジェクタを利用したパワーポイントによる授業。講義内容に関するグループワークを実施する。

4　成績評価方法・基準

定期試験　　80％

授業態度　　20％

5　評価の際の特記事項

定期試験、積極的な授業参加ができ自分の意見を述べることができること

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿った教科書の予習・復習をしてくること

配布されたプリントの見直し、復習を確実にすること

7　使用教材・教具

最新・介護福祉士養成講座 12　「発達と老化の理解」　中央法規出版（第２版）

8　学生へのメッセージ

人の一生とは何か（生まれてから死ぬまで）の経過を学び、老いていくとは何か、また老いていく成長過程を理解し、そのなかで精神の変化、身体の変化を学びます。

9　教員氏名（　　野田　比呂恵　　）

所　　属（こころ医療福祉専門学校壱岐校　介護福祉科）

実務経験の詳細（病院において看護師・保健師として勤務経験あり）

10　特記事項

実務的経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（　　発達と老化の理解　　）

回数	授業内容
1	人間の成長と発達の基礎的知識
2	人間の発達段階と発達課題①　発達理論とは
3	人間の発達段階と発達課題②　ピアジェ、エリクソンなど
4	身体的機能の成長と発達
5	心理的機能の発達
6	社会的機能の発達
7	老年期の特徴と発達課題①　老年期の定義、老化とは
8	老年期の特徴と発達課題②　老年期の発達課題　　日本の高齢化
9	老化にともなう身体的な変化と生活への影響①
10	老化にともなう身体的な変化と生活への影響②
11	老化にともなう身体的な変化と生活への影響③　復習
12	老化にともなう心理的な変化と生活への影響①
13	老化にともなう心理的な変化と生活への影響②
14	前期まとめ
15	確認試験
16	答案返却　　試験解説
17	老化にともなう社会的な変化と生活への影響
18	サクセスフルエイジング、プロダクティブエイジング、アクティブエイジングの考え方
19	高齢者に多い症状・疾患の特徴
20	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点　骨格系・筋系①
21	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点　骨格系・筋系②
22	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点　脳・神経系①
23	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点　脳・神経系②
24	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点　皮膚・感覚器系　循環器系①
25	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点　循環器系②　呼吸器系
26	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点　消化器系　腎・泌尿器系
27	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点　内分泌・代謝系
28	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点　歯・口腔疾患　悪性新生物
29	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点　感染症　精神疾患　その他
30	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点　まとめ
31	定期試験
32	答案返却　　試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　医療的ケアⅠ　）

学科名　　介護福祉科

学年　１年

1　授業の内容

医療的ケア実施の基礎として、医療的ケアとはどういうものか、また介護福祉士が「喀痰吸引」や「経管栄養」の医療行為の一部を業として行うことができるようになった背景など、医療的ケアを安全に実施するための基礎知識について教授する。
医療職との連携の下で医療的ケアが安全・適切に実施できるように、必要な知識・技術を習得する。

2　到達目標

１年次に学習するこころとからだのしくみとともに、相互理解を深め、医療的ケア（喀痰吸引、経管栄養）の基本的知識と実施手順の方法を理解する。
医療的な清潔・不潔とは何かを理解し、説明することができる。

3　授業の方法

清潔・不潔について手指衛生チェッカー（保健所貸与）を利用し確認する。
安全な療養生活を送るための喀痰吸引や経管栄養について、メディトレモデルを使用し説明、介護職ができる安全な医療行為について学ぶ。また消防署に依頼し救急蘇生法の方法を体験学習とする。ＰＣプロジェクタを利用したパワーポイントによる授業のほか講義内容に関するグループワーク、演習を実施する。

4　成績評価方法・基準

定期試験　80%　　授業態度　20%

5　評価の際の特記事項

授業全体の積極性や授業態度を重視して評価する。
向上心と積極性、協調性をもって授業に取り組むこと。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿った教科書の予習・復習をしてくること。
授業で配布する資料を見直し医療に対して理解を深める。

7　使用教材・教具

最新・介護福祉士養成講座 15 「医療的ケア」　中央法規出版（第３版）

8　学生へのメッセージ

医療的ケア（喀痰吸引、経管栄養）は、生命に関わることもある行為です。基本的な技術と状況に応じたコミュニケーション能力を身につけることができるよう授業に取り組んでください。医療を学ぶことで対象の理解と生活支援の幅を拡げましょう。

9　教員氏名（　　野田　比呂恵　　）

所　　属（こころ医療福祉専門学校壱岐校　介護福祉科）

実務経験の詳細（病院において看護師として勤務経験あり）

10　特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（　医療的ケアⅠ　）

回数	授業内容
1	医療的ケアとは　　医行為、医療の倫理について
2	喀痰吸引等制度　法的根拠を学ぶ
3	医療的ケアと喀痰吸引等の背景　介護福祉職等が喀痰吸引等を実施するための要件
4	安全な療養生活　喀痰吸引や経管栄養の安全な実施
5	清潔保持と感染予防　手洗いチェッカーによる確認　介護福祉職の感染予防
6	療養環境の清潔　消毒と滅菌　　救急蘇生法
7	救急蘇生法の手順と観察点
8	AED を用いた心肺蘇生法の流れ　講義および演習
9	AED を用いた心肺蘇生法の流れ　講義および演習
10	健康状態の把握　　身体・精神の健康　健康状態を知る項目
11	バイタルサイン①（測定方法と観察点）
12	バイタルサイン②、　急変状態について
13	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論　呼吸のしくみとはたらき
14	いつもと違う呼吸状態
15	喀痰吸引とは
16	前期まとめ
17	確認試験
18	答案返却　解説
19	子どもの吸引　吸引を受ける利用者やその家族の気持ちと対応について
20	喀痰吸引により生じる危険、危険防止のための医療職との連携
21	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順　必要物品としくみ、清潔保持
22	喀痰吸引実施手順と留意点①
23	喀痰吸引実施手順と留意点②
24	喀痰吸引実施手順と留意点③
25	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論　消化器系のしくみとはたらき
26	経管栄養とは　経管栄養のしくみと種類　経管栄養で使用される栄養剤
27	経管栄養実施上の留意点　子どもの経管栄養における留意点
28	経管栄養を受ける利用者とその家族の気持ちと対応　感染予防策
29	経管栄養により生じる危険　急変・事故発生時の対応と再発防止、連携
30	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順　経管栄養の必要物品としくみ
31	経管栄養実施手順と留意点①
32	経管栄養実施手順と留意点②
33	喀痰吸引・経管栄養のケア実施手順確認
34	喀痰吸引・経管栄養のケア実施手順確認
35	定期試験
36	答案返却　解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　　医療的ケアⅡ　　）

学科名　　介護福祉科

学年　　2年

1　授業の内容

シミュレーター―を使用した「喀痰吸引」「経管栄養」および「救急蘇生法」の各演習を通して、ケア実施の流れ（準備から実施・報告・記録まで）と留意点について理解し、医療的ケアが安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

2　到達目標

医療的ケアⅠ、こころとからだのしくみの授業とともに相互理解を深め、「喀痰吸引」「経管栄養」の基本的な知識と実施手順を理解し、安全・確実な技術を習得する。利用者の喀痰吸引、経管栄養の際の観察項目やその方法、清潔・不潔について演習を通して学び理解する。

3　授業の方法

メディトレモデルを使って喀痰吸引、経管栄養の演習を習得するまで繰り返し練習する（規定回数以上）。また救急蘇生法についても演習を実施する。

4　成績評価方法・基準

定期試験（筆記）	40%
実技（授業内評価）	40%
授業態度	20%

5　評価の際の特記事項

演習毎の（できた）チェック項目を確認しながら評価する。
演習を真剣に積極的に取り組んでいるか、授業態度を重点的に評価する。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

予習・復習をしておくこと。演習を何度も繰り返し、確実に実施できるようになること。そのため時間外の演習も行います。医療的ケアの必要物品の名前を覚えること。

7　使用教材・教具

最新・介護福祉士養成講座 15　「医療的ケア」　中央法規出版（第 2 版、第 3 版）

8　学生へのメッセージ

医療的ケアは、生命に関わることもあるケアですが日々の生活に密着したケアです。
医療を学ぶことで、対象の理解と生活支援の幅を拡げていきましょう。

9　教員氏名（　　野田比呂恵　　/　　佐藤チエミ　　）

所　　属（野田：こころ医療福祉専門学校壱岐校介護福祉科　）
　　（佐藤：特別養護老人ホーム壱岐のこころ　看護主任　）

実務経験の詳細（病院、介護施設において看護師として勤務経験あり）

10　特記事項

実務経験のある教員、非常勤教員による実務的教育の授業。

科目名（　医療的ケアⅡ　）

回数	授業内容
1	喀痰吸引・経管栄養のケア実施についてのオリエンテーション
2	喀痰吸引・経管栄養演習、実施手順の流れと留意点、説明と同意
3	喀痰吸引・経管栄養演習、必要物品・器材の確認と準備の方法、環境整備の方法
4	喀痰吸引・経管栄養演習、清潔・不潔の確認、医師の指示の確認事項と留意点
5	喀痰吸引・経管栄養演習、鼻腔内・口腔内喀痰吸引の実施手順と留意点
6	喀痰吸引・経管栄養演習、胃ろう・腸ろうによる経管栄養の実施手順と留意点
7	喀痰吸引・経管栄養演習、評価
8	喀痰吸引・経管栄養演習　評価
9	喀痰吸引・経管栄養演習、気管カニューレ内部の喀痰吸引　実施手順と留意点
10	喀痰吸引・経管栄養演習、経鼻経管栄養の実施手順と留意点
11	喀痰吸引・経管栄養演習、いつもと違う呼吸状態とは、観察点、医療との連携
12	喀痰吸引・経管栄養演習、吸引物の確認、吸引後の片づけと留意点、医療職への報告
13	喀痰吸引・経管栄養演習、評価
14	喀痰吸引・経管栄養演習、評価
15	喀痰吸引・経管栄養演習、経管栄養の基礎的知識、実施時の留意点と観察項目
16	喀痰吸引・経管栄養演習、経管栄養のしくみと種類、想定されるリスク
17	喀痰吸引・経管栄養演習、胃ろう・腸ろうによる経管栄養の実施手順と留意点
18	喀痰吸引・経管栄養演習、鼻腔内・口腔内喀痰吸引の実施手順と留意点
19	喀痰吸引・経管栄養演習、評価
20	喀痰吸引・経管栄養演習、評価
21	喀痰吸引・経管栄養演習、経鼻経管栄養の実施手順と留意点
22	喀痰吸引・経管栄養演習、気管カニューレ内部の喀痰吸引　実施手順と留意点
23	喀痰吸引・経管栄養演習、経管栄養チューブによる刺激・スキントラブル
24	喀痰吸引・経管栄養演習、経管栄養実施後の片づけ、衛生管理、医療職との連携
25	喀痰吸引・経管栄養演習、評価
26	喀痰吸引・経管栄養演習、評価・実技試験
27	喀痰吸引・経管栄養演習、評価・実技試験
28	医療的ケアＤＶＤ、　救急蘇生法の実際、AED を使った救命方法
29	救急蘇生法の実際、AED を使った救命方法
30	定期試験
31	答案返却　　試験解説